

岩手県文化財調査報告書 第95集

岩手県内遺跡発掘調査報告書
(平成 5 年度)

平成 6 年 3 月

岩手県教育委員会



序 文

埋蔵文化財は、私たちの先祖より永く培われてきた貴重な歴史資料であります。私たちはそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき保護・活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は、近年の増大する大規模な開発等によりきびしい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかるために、遺跡の性格・所在地・範囲等を正確に示すことが必要であることは言うまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところでありますが、市町村教育委員会のご協力も得て、現在県内で確認されている遺跡数は8,700余ヶ所にものぼります。これらの遺跡の周知徹底を計る必要があると共に、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より、年度毎に報告書を作成しております。

本報告書は、平成5年度に実施した県内遺跡の発掘調査・試掘調査・分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位からご協力・ご指導を賜りましたことに対し心より感謝申し上げます。

平成6年3月

岩手県教育委員会

教育長 千葉 浩一

例　　言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成5年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
2. 本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
3. 遺跡位置図は、国土地理院発行の1/25,000地図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業所より入手した1/1,000地図を原図に、縮尺1/2を原則として掲載した。
4. 試掘調査に係る遺跡の推定範囲については、スクリーントーンで示し、試掘溝は実線で示した。
5. 遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名の付けられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。
6. 本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局文化課の小田野哲憲主任文化財主査、熊谷常正・中村英俊文化財主査が担当した。なお、整理については、下記の方々のご協力をいただいた。

小野寺泰憲、松本恵利子、恵津森礼子

7. 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

目 次

序 文 例 言

I 発掘調査

| | |
|-----------------------------|----|
| 1. 県営農村活性化住環境整備事業〔大桜地区〕関連調査 | 3 |
| (1) 大桜遺跡 | |
| (2) 目呂木本杉遺跡 | |
| 2. 県営ほ場整備事業〔愛宕南部地区〕関連調査 | 20 |
| (1) 観音堂沖遺跡 | |
| 3. 農免農道整備事業〔前沢2期地区〕関連調査 | 28 |
| (1) 明後沢遺跡 | |
| 4. 農免農道整備事業〔上野地区〕関連調査 | 32 |
| (1) 北館G遺跡 | |
| 5. 早池峰ダム建設事業関連 | 40 |
| (1) 人中遺跡 | |

II 試掘調査

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 県営ほ場整備事業〔宮手・稻藤地区〕関連調査 | 45 |
| (1) 上平沢新田遺跡 | |
| 2. 東北横断自動車道秋田線建設関連調査 | 47 |
| (1) 本内II遺跡 | |
| 3. 町道種市漁港線道路改良事業関連調査 | 49 |
| (1) ゴッソー遺跡 | |
| 4. ふるさと農道整備事業〔牧田・福伏地区〕関連調査 | 51 |
| (1) 牧田貝塚 | |
| 5. 農免農道整備事業〔浜岩泉地区〕関連調査 | 53 |
| (1) 浜岩泉I遺跡 | |
| 6. 広域農道整備事業〔軽米・九戸地区〕関連調査 | 55 |
| (1) 長倉I遺跡 | |
| 7. 北本内ダム建設事業関連調査 | 56 |
| (1) 本内遺跡 | |
| 8. 鷹生ダム建設関連調査 | 58 |
| (1) 上甲子遺跡 | |
| 9. 県立胆沢病院移転候補地関連調査 | 60 |
| (1) 龍ヶ馬場遺跡 | |
| 10. その他の試掘調査 | 62 |

| | |
|-------------------------------|----|
| III 分布調査 | 65 |
| 県立胆沢病院移転候補地関連調査 | |
| 一関遊水地事業関連調査 | |
| 家畜改良センター岩手牧場草地造成事業関連調査 | |
| 県営畜産経営環境整備事業奥羽北部地区関連調査 | |
| 県営ほ場整備事業〔小友地区〕関連調査 | |
| 県営ほ場整備事業〔徳田第一地区〕関連調査 | |
| 県営ほ場整備事業〔和賀中央第四地区〕関連調査 | |
| 一般農道整備事業〔赤屋敷地区〕関連調査 | |
| 広域農道整備事業〔輕米九戸地区〕関連調査 | |
| 北上川上流日形地区築堤事業関連調査 | |
| 農免農道整備事業〔新町第一地区〕関連調査 | |
| 一般農道整備事業〔豊畑地区〕関連調査 | |
| 農免農道整備事業〔奥玉北地区〕関連調査 | |
| 岩手県農業研究センター県北農業技術センター（仮称）関連調査 | |
| 県営ほ場整備事業〔宮野目第一地区〕関連調査 | |
| 水環境整備事業〔乙女川地区〕関連調査 | |
| 国道340号道路改良〔岩泉横道地区〕関連調査 | |
| 県営ほ場整備事業〔湯本第四地区〕関連調査 | |
| 県営ふるさと農道緊急整備事業〔牧田・福伏地区〕関連調査 | |
| 黒沢川地方特定河川等環境整備事業関連調査 | |
| 主要地方道水沢人首線〔桜沢地区〕道路改良事業関連調査 | |
| かんがい水路建設事業〔一方井地区〕関連調査 | |
| 国道45号普代バイパス建設事業関連調査 | |
| 農免農道整備事業〔松石地区〕関連調査 | |
| 一般農道整備事業〔滝地区〕関連調査 | |
| 農免農道整備事業〔五日市湯沢地区〕関連調査 | |
| 県営ふるさと農道緊急整備事業〔目名市地区〕関連調査 | |
| 県営ふるさと農道緊急整備事業〔柴波中央地区〕関連調査 | |
| IV 写真図版 | 75 |

I 発掘調査

1. 県営農村活性化住環境整備事業【大桜地区】関連調査

(1) 大桜遺跡

所在地：胆沢郡前沢町字大桜

調査期日：平成5年11月1日～

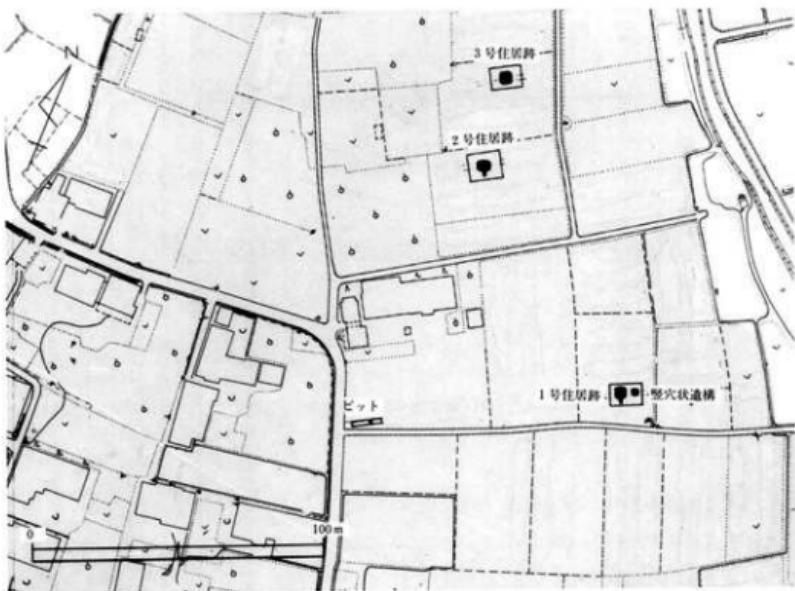
12月2日

本遺跡は、北上川及び支流である白鳥川によって形成された沖積平野の微高地上に立地し、標高は25m～26mを測る。周囲の水田との比高差は1m内外である。

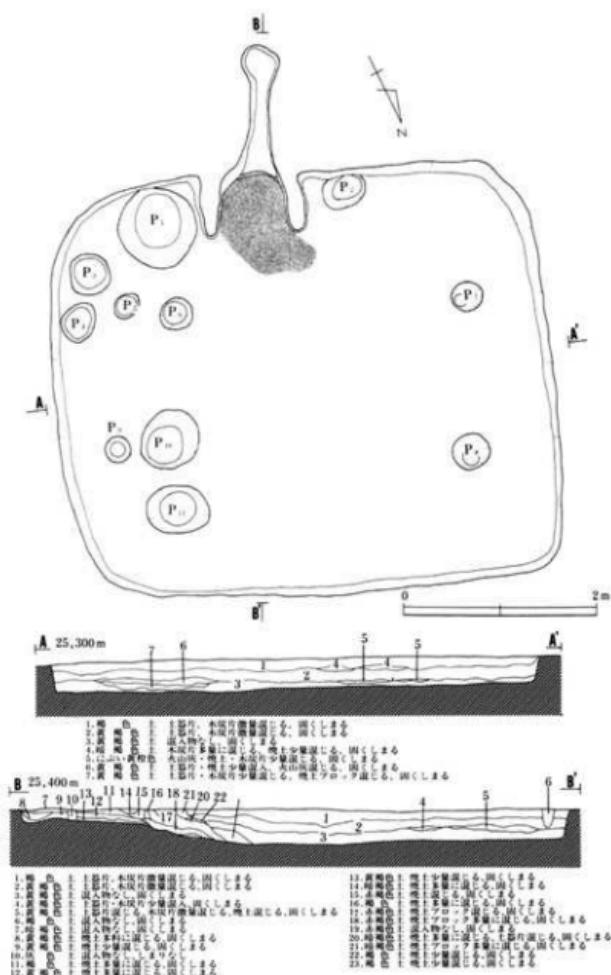
本遺跡の南側1kmほどの範囲に、瀬原棚跡・白鳥館をはじめ、安倍氏・藤原氏関連の遺跡があり、今回の調査エリアはそれらとの関連が想定されていたが、開発行為がほとんどな



第1図



第2図 大桜遺跡遺構配置図



第3図 大桜遺跡第1号住居跡平・断面図

く、今まで発掘調査が行なわれたことはない。

今年度は場整備関連の事業が入ることになり、試掘調査を実施したところ、第2図のとおり住居跡等の多数の遺構が検出された。遺構については、保存することを前提に事業者側と設計

変更についての協議を行ったが、やむを得ないものについてのみ記録保存のための発掘調査を実施することとした。

①第1号住居跡

【遺構】(第3図参照)

1号住居跡は、本遺跡の南東壁にあり検出面の標高25.2mを測る。主軸を南北から約30°東に寄る方向に持ち、1辺5.1m×4.3mの隅丸方形の形を呈す住居である。検出面から床まで約30cm内外を測り、埋土中に木炭小片及び灰白色火山灰が混じる。

カマドは住居南壁の中央部からやや東寄りに位置し、南側に約1.5mほど伸びる煙道を持つ。焚口部から住居床面西側にやや広がる形で焼土が見られた。

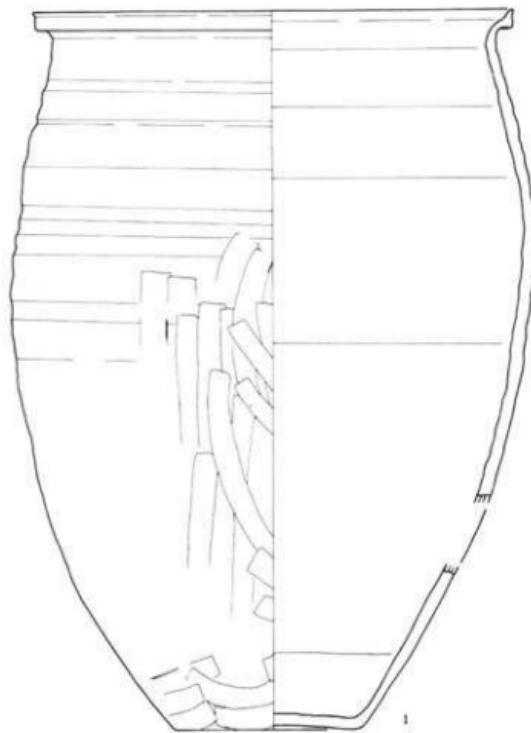
ピットは大小11基検出された。P₁はカマド左袖の東寄りにあり、径約85cmのほぼ円形を呈し深さは約45cmを測る。埋土中には多量の遺物が含まれていた。P₂～P₅は径25cm～45cmで深さ20cm～40cmのピットであるが、埋土中に遺物は見られなかった。P₆～P₈は住居に伴う柱穴と思われる。いずれも径40cm内外深さ35cm内外を測るものである。P₉は径25cm深さ30cmを測るピットであるが、埋土中に遺物は見られなかった。P₁₀・P₁₁は径約60cm深さ約40cmを測り、いずれも埋土中に多量の木炭片・焼土が見られ、土師器細片が含まれていた。住居の平面プランから見れば、埋土の状況は異なるものの、P₁₁はP₆～P₈に対応する住居の柱穴になる可能性がある。

【遺物】(第4図・第5図参照)

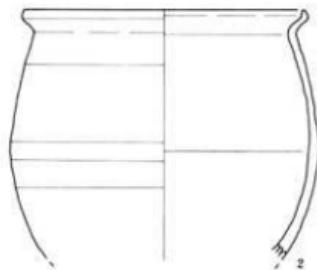
1号住居跡では、埋土中・カマド内及びカマド左袖横のピット内から多量の遺物が出土しているが、その中で図化できたものは、第4図・第5図に示したとおり11点である。以下その概略について述べてみたい。

第4図はカマド内から出土したクロコ成形の土師器甕である。1は口径25cm、器高37.5cmを測り、最大系を肩部から胸部にかけて持つ長胴甕である。体部外面では縦方向に、底部では横方向にケズリが見られる。口縁部は外反し、口唇部はほぼ直横に挽き出されて、断面形は三角形となる。2は最大径を体部中央に持つ小型の甕である。口縁部は外反し、口唇部は上方に挽き出されている。

第5図はカマド袖横のピット(P₁)から出土した土師器甕及び环である。1は体部中央よりやや下に最大径を持つクロコ成形の長胴甕である。口径22.7cm、器高32.5cmを測る。2～9はいずれも回転系切りの土師器环である。内面が黒色処理されているものが6点(2～5・7・9)、内面がヘラミガキされているものが1点(7)である。また2～4・6～9については、口径15cm器高5cm前後の法量であるが、5だけは口径17.5cm、器高6cmを測る。

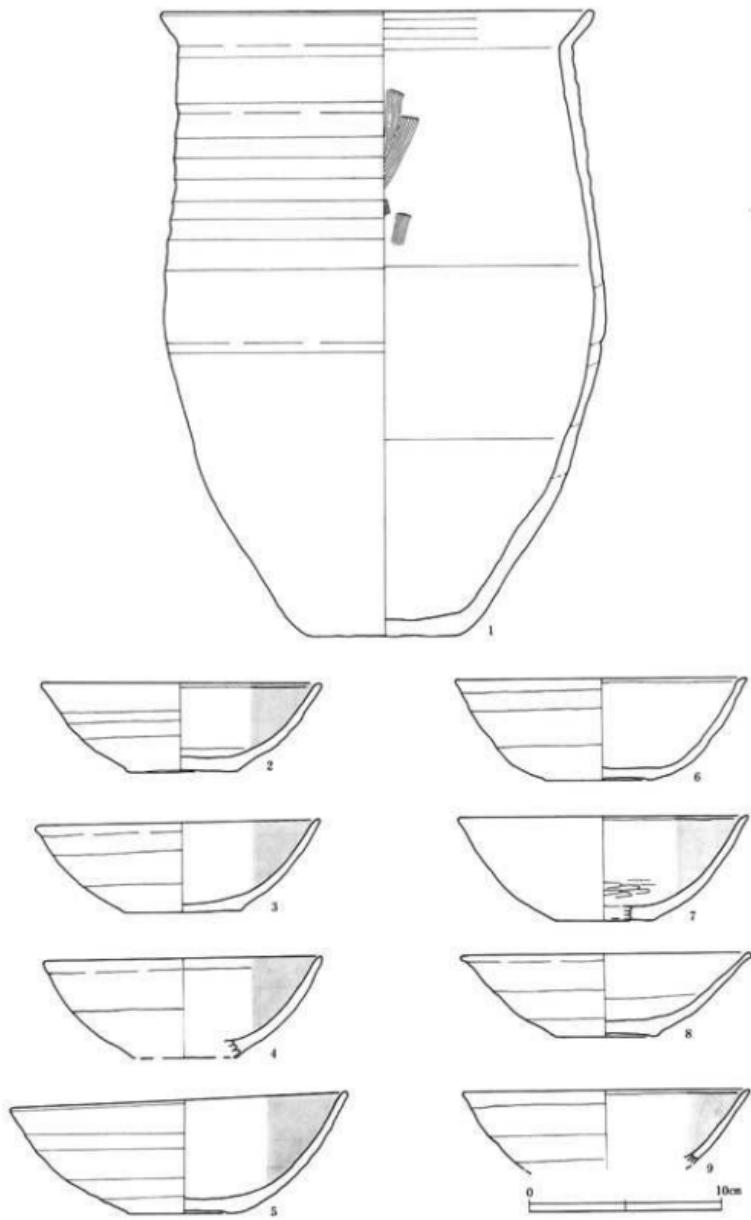


1

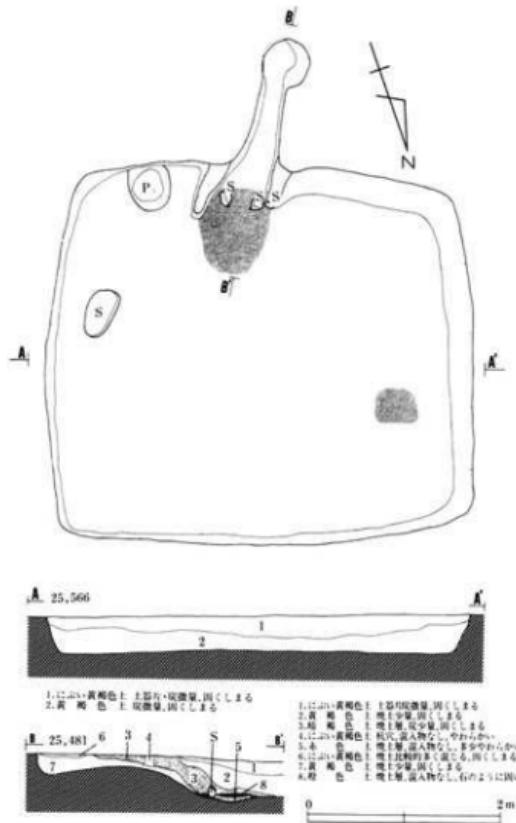


0 10cm

第4図 大桜遺跡I号住居跡出土遺物(1)



第5図 大桜遺跡1号住居跡出土遺物(2)



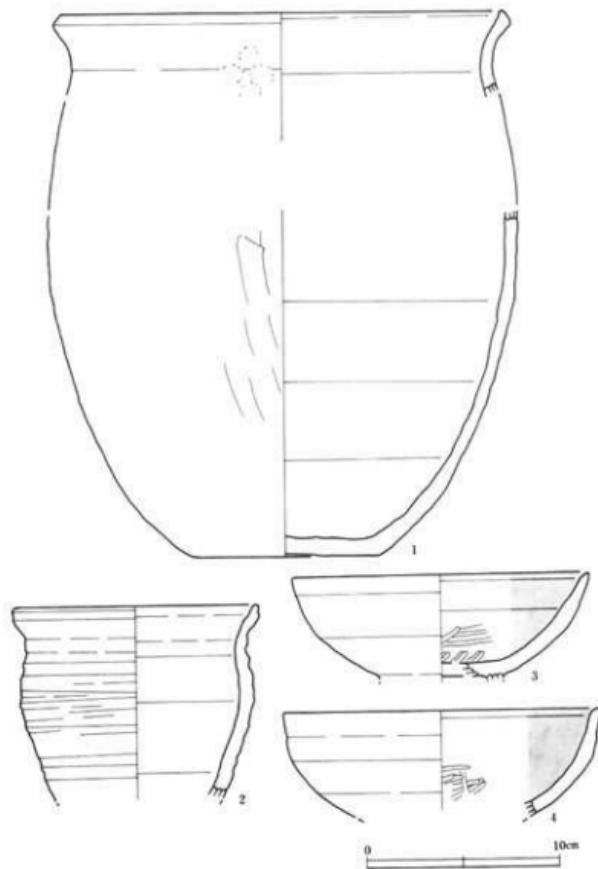
第6図 大桜遺跡第2号住居跡平・断面図

住居跡の埋土中に見られる灰白色火山灰が十和田a降下火山灰と想定されること、また遺物の概観から、この住居跡については10C後半の住居跡と考える。

②第2号住居跡

【造構】(第6図参照)

2号住居跡は、本遺跡の中央部やや南寄りにある平安時代の竪穴住居跡であり、検出面の標高25.4mを測る。主軸は1号住居跡とほとんど同じ方向で、南北から南へ約30°寄る。一辺4.5m×4mの隅丸方形を呈し検出面から床までは40cm前後である。埋土は2層に分けられ、



第7図 大桜遺跡2号住居跡出土遺物(3)

人工的に埋め戻されたものと考えられる。カマドは南壁中央部に位置し、南東側やや曲がって伸びる約1.5mほどの煙道を持つ。焚口部には70cm×80cmの範囲で焼土が広がっている。煙土は住居両壁中央部寄りにも1ヶ所見られた。

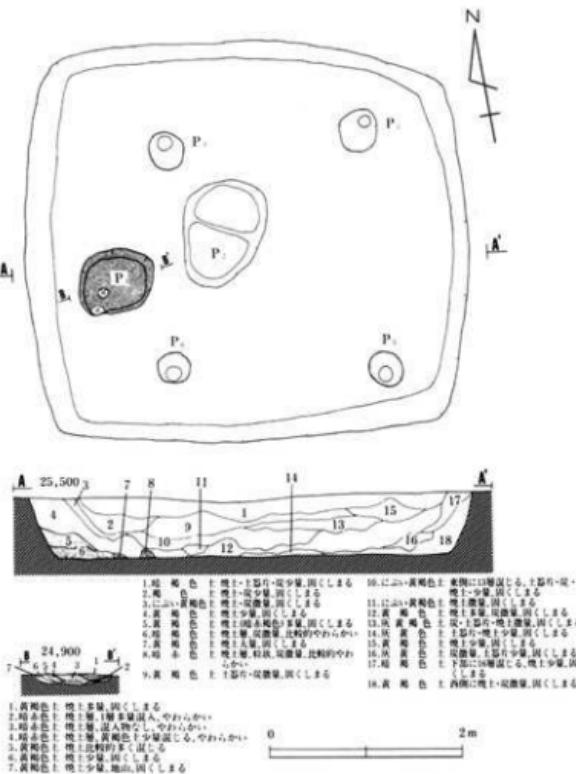
ピットはカマド左袖の横に1基検出された。径約50cmのほぼ円形を呈し、深さは45cmを測るが、埋土中の遺物は土師器片のみ少量であった。住居に伴う柱穴は確認できなかった。

〔遺物〕(第7図参照)

2号住居跡は出土遺物量が少なかったが、第7図で図示した遺物は、カマド内及びカマド付近のものである。

1はカマド内から出土したロクロ成形の土器器甕である。口径23cm、器高は28.5cmほどと推定される。最大径を胴部中央に持ち、外面に縦方向のケズリが見られる。2は底部を欠く壺である。口径13cm、器高は12cm前後と推定される。

3、4はいずれも底部を欠くが、内面にヘラミガキ及び黒色処理が施された土器器甕である。3は高台付甕と思われる。

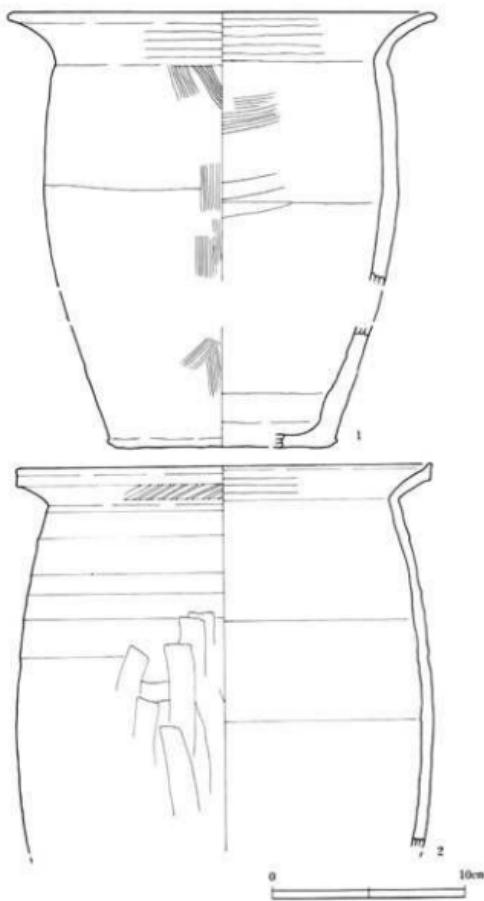


第8図 大桜遺跡第3号住居跡平・断面図

③第3号住居跡

〔構造〕(第8図参照)

3号住居跡は、検出面の標高25.4mを測り、1辺4.5m×4.2mのほぼ方形を呈す。壁高は60cm~65cmを測る。カマドは見られず、大量に焼土が見られるP₁が存在する。P₁は70cm×80cmのやや隅丸形状を呈し、深さは10cmである。P₂は長軸115cm、短軸85cmの楕円形を呈し底面がほぼ中央で2段に分かれれる。住居ほぼ中央に位置するが、性格は不明である。



第9図 大桜遺跡出土遺物(4)

$P_3 \sim P_6$ は住居に伴う柱穴である。いずれも径35cm~40cmのほぼ円形で深さは60cm~70cmを測るが、斜方向に抜き取られた様相を呈す。

3号住居は平安時代の竪穴住居跡と思われるが、1・2号住居に比べカマドを持たず、壁高が高く、柱穴が深いという特徴を持つ。このことが1・2号住居に比べ異なるタイプの住

居形態なのか、あるいは住居以外の目的で造られたものなのかについては、この地域での発掘調査成果の集積を待ちたい。

〔遺物〕(第9図参照)

3号住居跡で出土した遺物のうち図化できたものは、第9図に示した2点で、いずれも土器壺である。

1は口縁部に最大径を持つ壺で、口径22.5cmである。体部内外面にハケメ調整が施され、口縁部が大きく外反する。底部は約1/4の残存であるが、底面に木葉痕が見られる。2は最大径を胴部に持つ長胴壺である。体部外面に縱方向のケズリが見られ、口縁部は鋭く外反し、口唇部はほぼ直上に挽き出されている。口径は21.7cmを測る。

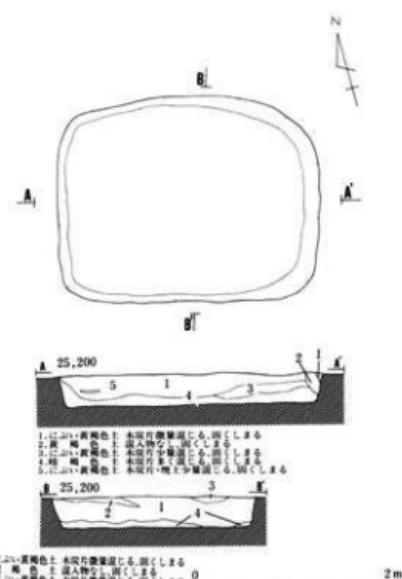
④竪穴状構(第10図参照)

第10図で示したものは、長辺2.7m、短辺2.1m、壁高30cm前後の方形に掘り込まれた構造である。1号住居跡の南約2mに位置する。埋土中に木炭片が少量見られるものの、柱穴は確認できず、遺物も出土していないため、時期・性格とともに不明の構造である。

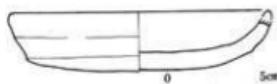
⑤ピット(第11図A・B参照)

第11図で示したものは、かわらけを出土したピット及びかわらけである。ピットは径1.3m深さ0.95mを測るものである。かわらけは平泉町内での出土状況とは全く様相を異にし、口縁部の一部を欠くものを一個だけ大事に埋設した様子が窺え、12Cの庶民の墓壙の可能性が考えられる。

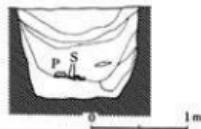
今回の調査で唯一12C構造、遺物と推定できるものであるが、いずれ前沢町は11C～12Cにかけての庶民の暮しぶりを今後明らかにする上で貴重な地域と考えられる。



第10図 大桜遺跡竪穴状構構平・断面図



第11図A 大桜遺跡出土遺物(5)



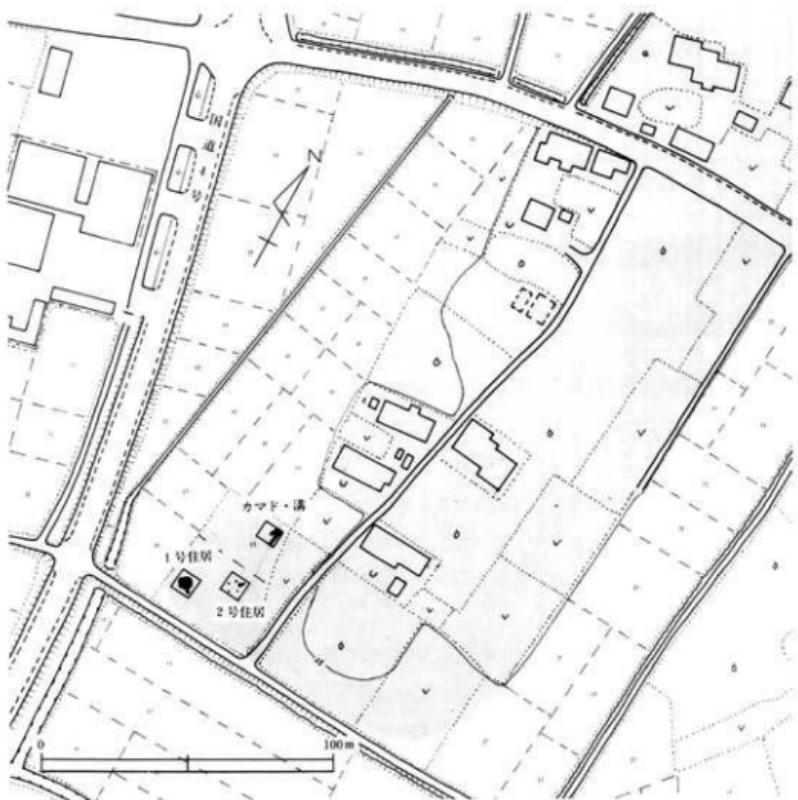
第11図B 大桜遺跡ピット断面図

(2) 目呂木本杉遺跡

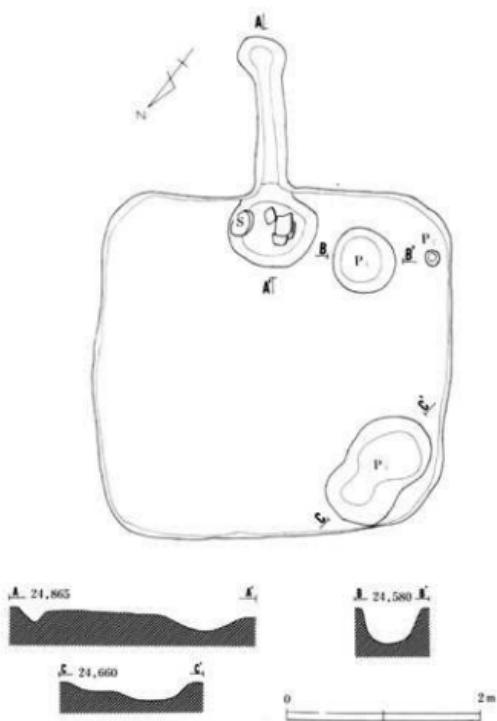
所在地：胆沢郡前沢町字高畑 調査期日：平成5年3月4日～6日

本遺跡は、前沢町市街地の東南、国道4号の東に近接して所在する。ここは、沖積地の開析が進み微高地上に取り残された低位段丘上に位置し、標高は25m前後であり、周囲の水田面とは比高差は約1mである。

平成5年1月14日に試掘調査を実施しており、遺跡南端西側で平安時代の土師器片・須恵器片が出土し、焼土も検出されている。事業実施にあたり、事業者側と設計変更の協議を重ねたが、今回2調査区についてはやむを得ず発掘調査を実施することとした。なお、今回の調査区の東側で、かわらけ・陶器片が出土しており、その区域は設計変更により現状保存とした。



第12図 目呂木本杉遺跡遺構配置図



第13図 目呂木本杉遺跡第1号住居跡平・断面図

深さ22cmを測るものであり、柱穴の可能性も考えられるが、一基だけであり壁に寄り過ぎていることもあるって断定できない。P₃は住居北西隅にあるダルマ型のピットであり、住居に伴うものではあるが性格は不明である。明らかに住居に伴う柱穴については検出できなかった。

〔遺物〕(第14図・第15図参照)

1号住居ではカマド・カマド袖の貯蔵穴を中心に大量の遺物が出土している。その中で図化できたものを示した。第14図1・2はいずれも底部を欠き、器壁の厚さ・底部からの立ち上がり・口縁部の反り・口唇部のつくりに違いがあるが、堀に分類されるものであろう。3は口縁部・底部をそれぞれ反転実測したものであり、器壁の傾き及び口縁部と底部のつながりは明確ではない。底部に4ヶ所穿孔されており、日常生活用具として用いられたものとは

①第1号住居跡

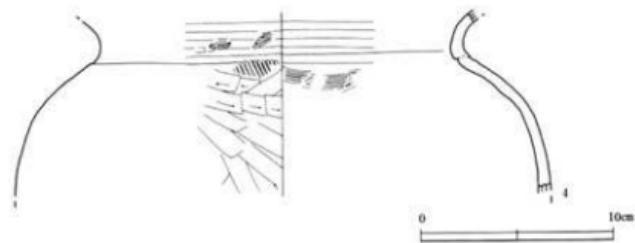
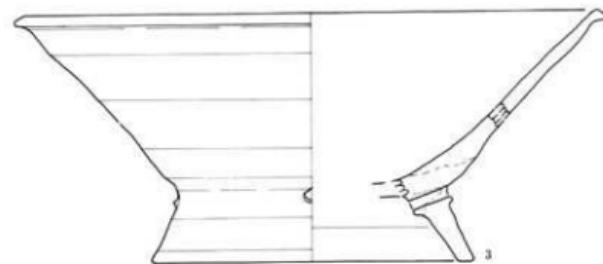
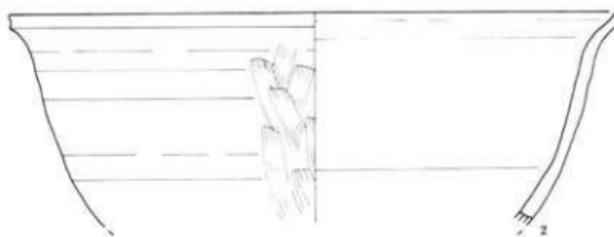
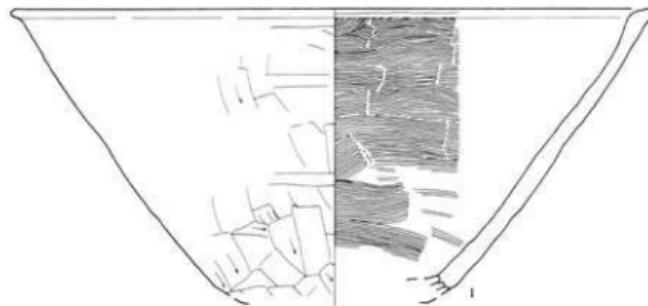
〔遺構〕(第13図参照)

1号住居は本遺跡の南西端に位置する平安時代の竪穴住居跡であり、検出面の標高は、24.7mを測る。主軸を南東-北西方向に持ち、1辺3.6m～3.7mの隅丸方形を呈す。水田造成のため削平されており、壁高は約10cm～15cmしか残存しない。

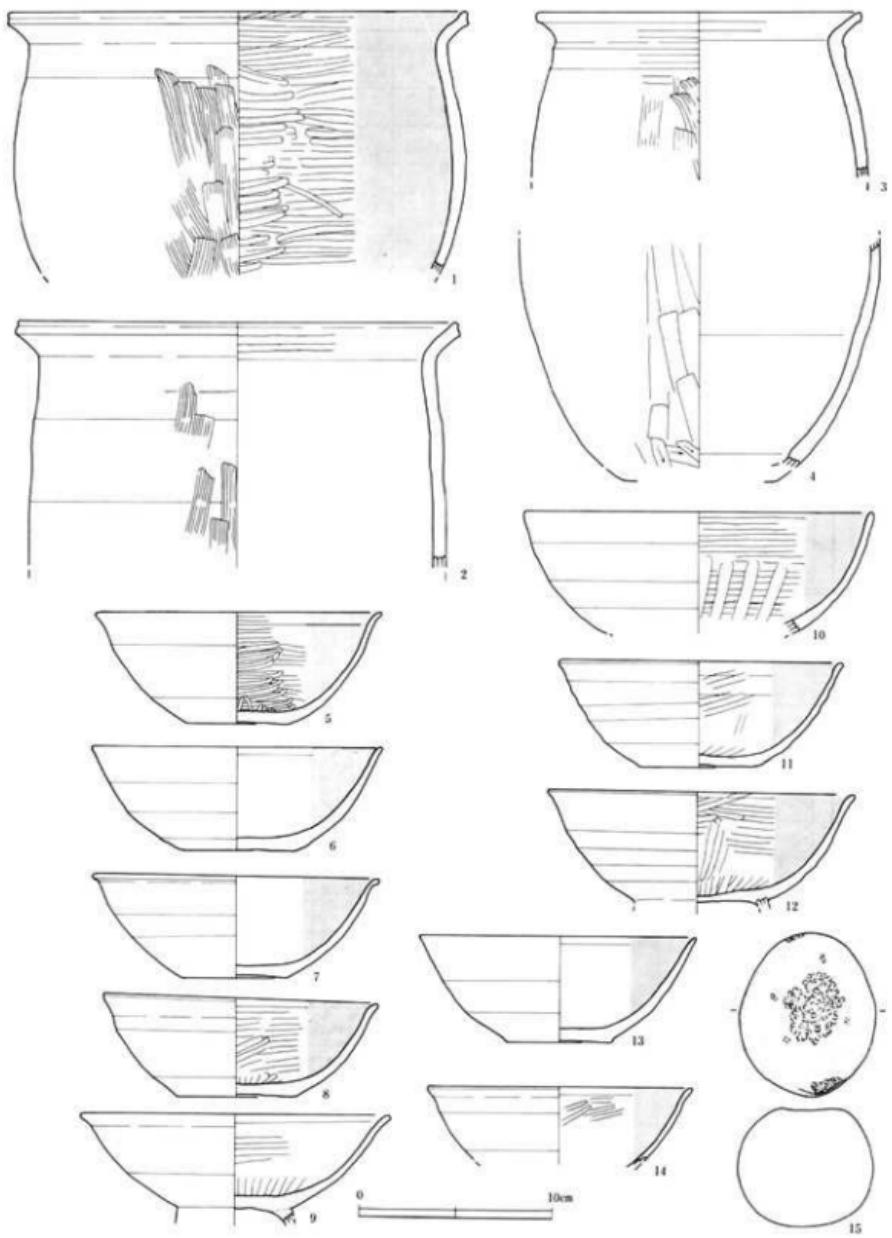
カマドは住居南側のほぼ中央部に位置し、南東方向に約1.6mほど伸びる煙幕を持つ。煙出し部は径約45cmのピットで、煙道底面から15cmほど掘り込まれている。焚口部も円形に掘り込まれており、径80cm、深さ15cmを測る。

ピットは3基検出された。

P₁はカマド袖の貯蔵穴と思われるもので、径70cm前後、深さ35cmを測る。P₂は径15cm、



第14図 目呂木本杉遺跡Ⅰ号住居跡出土遺物(1)



第15図 目呂木本杉遺跡出土遺物(2)

考えにくいものである。4
は口唇部・体部下半を欠く
が、肩部に最大径を持つ球
胸壇である。第14図の遺物
はいずれもカマドから出土
した土師器である。

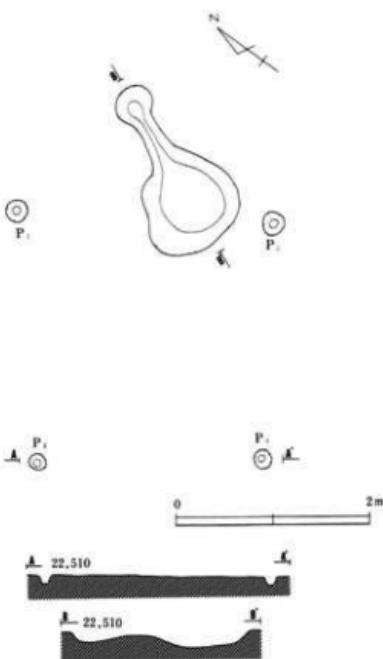
第15図1～4もカマドか
ら出土したものである。い
ずれも体部上・下半部のい
ずれかを欠くが、土師器壺
の破片であり、1のみが内
面が黒色処理され、ヘラミ
ガキされている。5～9も
カマドから出土した土師器
壺である。5～8は内面黒
色処理が施され、いずれも
底部切り離しは回転糸切り
による。9は底部を欠くが
高台付壺である。10、11は
住居床面から出土した内面
黒色処理、回転糸切りによ
る土師器壺である。12～15

はカマド袖ピット出土の遺物である。12は土
師器高台付壺、13・14は土師器壺である。い
ずれも内面黒色処理が施されている。

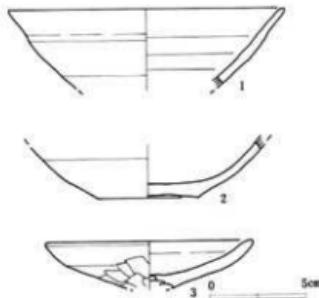
②第2号住居跡

〔遺構〕(第16図参照)

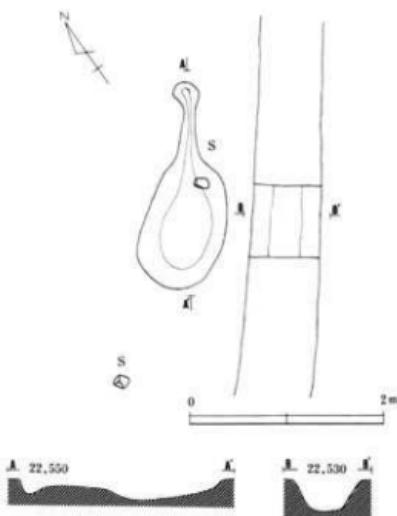
2号住居は平安時代の堅穴住居跡であり、
第16図のとおり水田造成のため壁は既に削平
されており、柱穴及びカマドの底部のみ検出
された。カマドは北カマドであり、約1mほ
どの煙道を持つ。焚口部は掘り込まれており、



第16図 目呂木本杉遺跡第2号住居跡平・断面図



第17図 目呂木本杉遺跡出土遺物(3)



第18図 目呂木本杉遺跡カマド跡・溝跡平・断面図

いるが、このカマド跡は平安時代の住居に伴うものであり、その住居を切って溝跡がつくられたと判断される。しかし、カマド跡以外に住居に伴う遺構は検出されなかった。

カマド跡は北東方向に約1.2mほどの煙道を持ち、煙出し部はピット状に掘り込まれている。溝跡は北東から南西方向に走り、検出時の上巾70cm、下巾30cm、深さ28cmほどである。

〔遺物〕(第19図参照)

1は壙に分類されるものであるが、1号住居跡から出土した壙に比べ、器壁の傾き、口縁部の反り、口唇部のつくりに異なった様相を呈す。2～5はいずれも体部上・下半部のいずれかを欠く土師器壙である。2は最大径を口縁部に持ち、体部外面底部に向かって縦方向のヘラケズリが見られる。4は体部外面に口縁部に向かって縦方向のヘラケズリが見られ、体部内面は横ナデ調整が施されている。1～5及び6～8の土師器壙を含めいずれもカマド跡からの出土である。

9は体部外面にハケメ調整が施され、口縁部にへらで横様状の刻みが見られる土師器壙である。

以上のことから遺構は全て平安時代のものであるが、1号住居跡については10C、2号住居跡・カマド跡は11Cの遺構と考えられる。

円形のピット状を呈す。径は約80cmほどである。柱穴P₁～P₄はいずれも検出径20cm前後であり、深さ10cm前後の残存しかない。

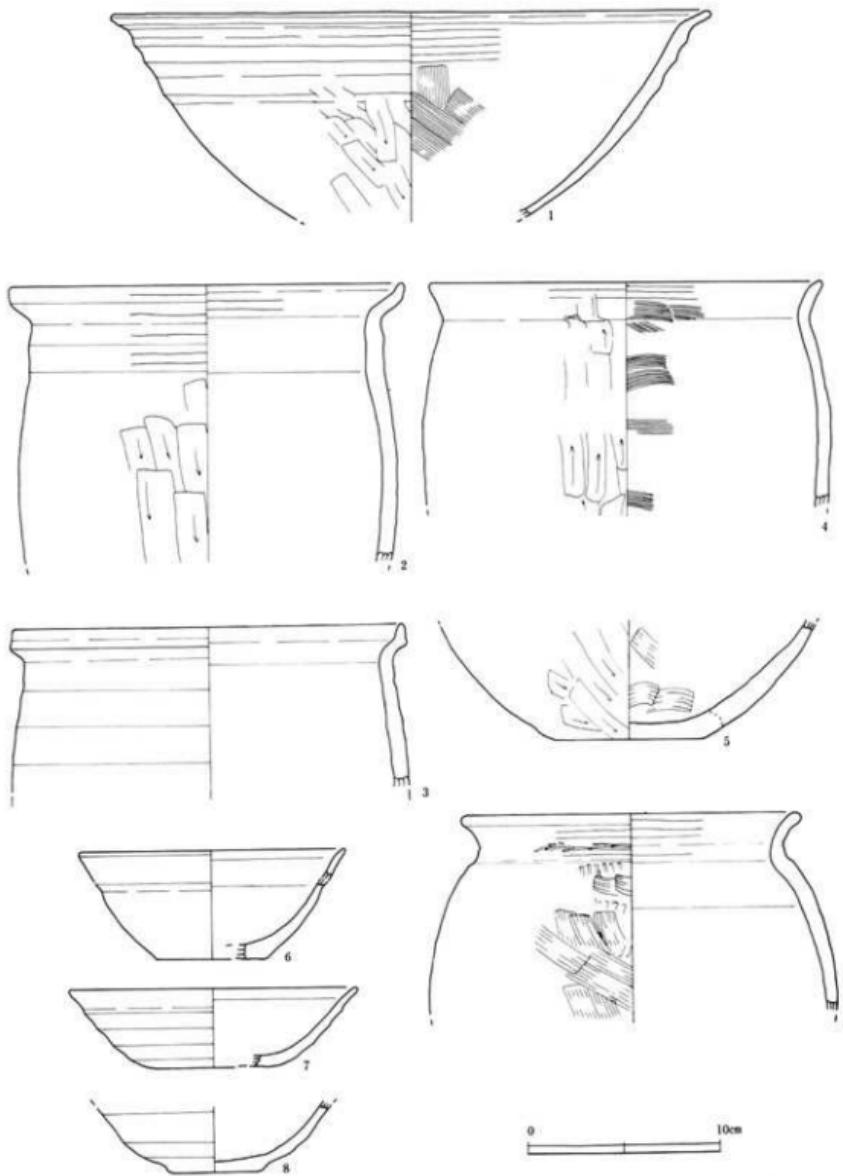
〔遺物〕(第17図参照)

第17図で示した遺物はいずれもカマド焚口部からの出土した土師器である。1は底部、2は口縁部を欠くがいずれも壙と思われる。2の底部切り離しは回転糸切りによる。3も底部を欠くが壙と思われる。

③カマド跡・溝跡

〔遺構〕(第18図参照)

今回の調査区北東端でカマド跡と溝跡が隣接して検出されている。1・2号住居と同様、水田造成のため削平を受けて



第19図 目呂木本杉遺跡出土遺物(4)

2. 県営は場整備事業〔愛宕南部地区〕関連調査

(1) 観音堂沖遺跡（位置図：第20図）

所在地：江刺市愛宕観音堂沖

調査期日：平成5年3月、7月

遺跡は、江刺市岩谷堂市街地の南西約3km、県道水沢人首線の南に位置する。遺跡の北西に接して、地名由来の観音寺がある。南東は池向遺跡と接する。現況は水田で、標高約39.5mを測るが、かっての水田整備により自然堤防状の地形は削平され、ほぼ平坦な面となっている。

調査は、ほ場整備による道路（支線第14号）と排水路（第11号）部分のみを対象とした。試掘トレンチの断面観察によって、遺構検出面は、現地表より約40cm下位にあることが確認できたため、水田部分に関しては遺構に影響が及ばない工法をとることにより、保存を図った。なお、遺跡北半は、事業予定地であり、調査からは除外してある。

遺跡西端に設定したT₁において、住居跡一棟を検出し、1号住居跡と命名、トレンチを拡張し調査した。また、東側部分にT₂・T₃を設定したが、T₃の南側で、2号住居跡、溝状遺構を検出し、それぞれ拡張し調査を実施した（第21図）。

これらの試掘トレンチ及び拡張部における土層は、表土の下にややグライ化した黒褐色土があり、その下位に暗茶褐色砂層、茶褐色砂層と堆積する。遺構検出面はこの茶褐色砂層である。



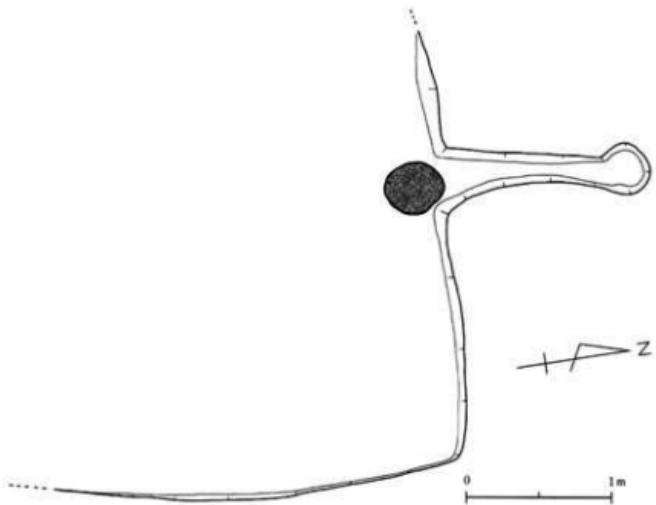
第20図



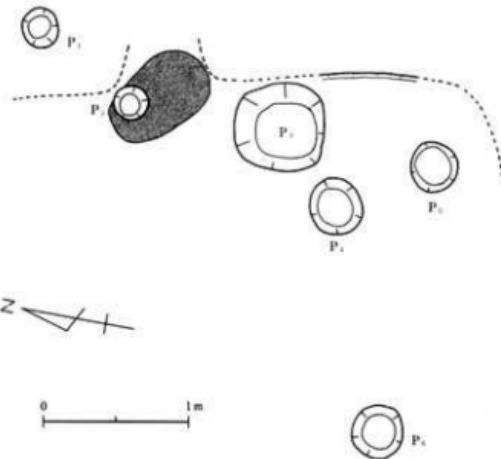
第21図 観音堂沖遺跡トレント配置図

住居跡は、いずれも残存状況は悪く、また埋土と地山の色別も、僅かな炭化物の有無で判断せざるを得ない状況であった。1号住居跡（第22図）は、北辺と東辺は確認できたが、全体のプランは把握できかねた。北カマドを設け、燃焼部には僅かながら焼土が残存していた。

2号住居は、東カマドと思われるが、壁は東辺の一部が確認できただけで、やはり全体プランは知り得なかった。P₁・P₂は、住居より新しい時期の性格不明のピットである。P₃は一辺約70cmのカマド横のピットで、第25図1、4～8の遺物が出土している。住居に伴う柱穴は、P₄



第22図 観音堂沖遺跡1号住居跡平面図

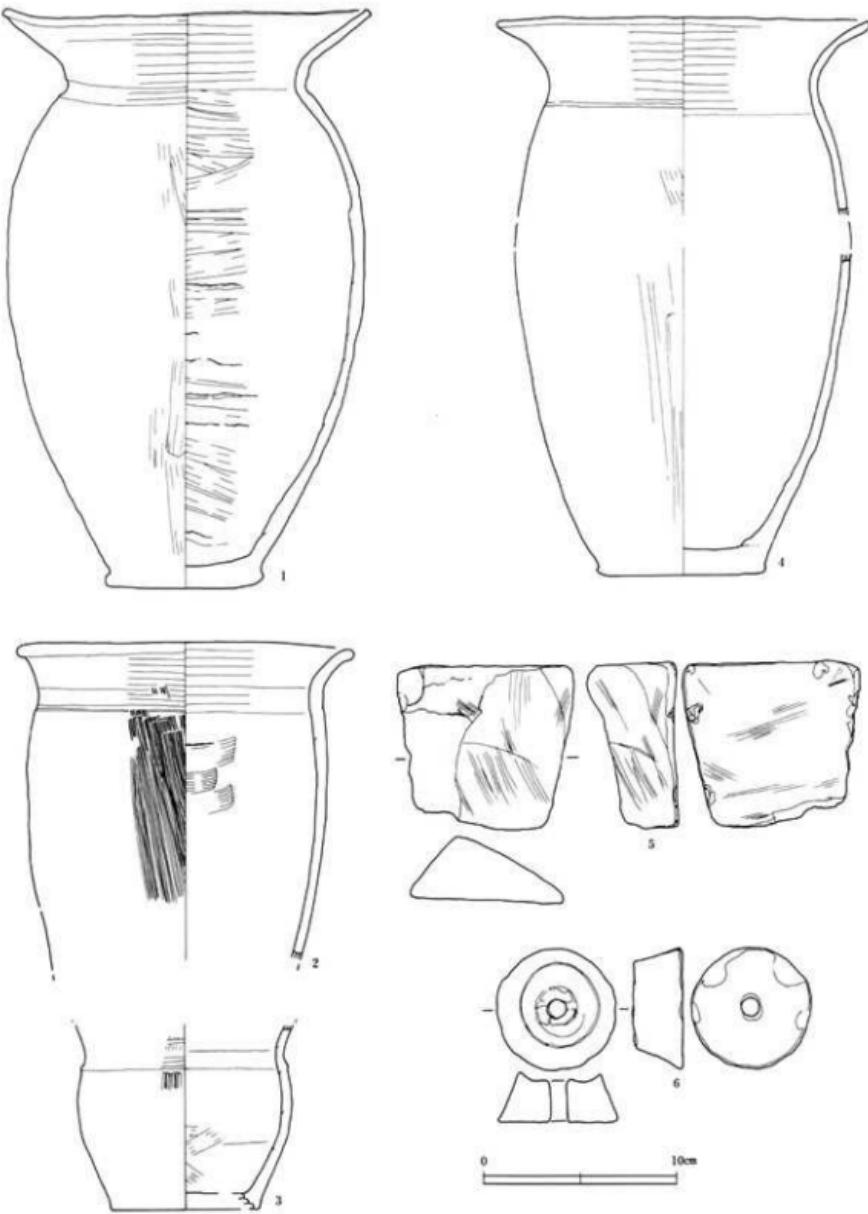


第23図 観音堂沖遺跡2号住居跡平面図

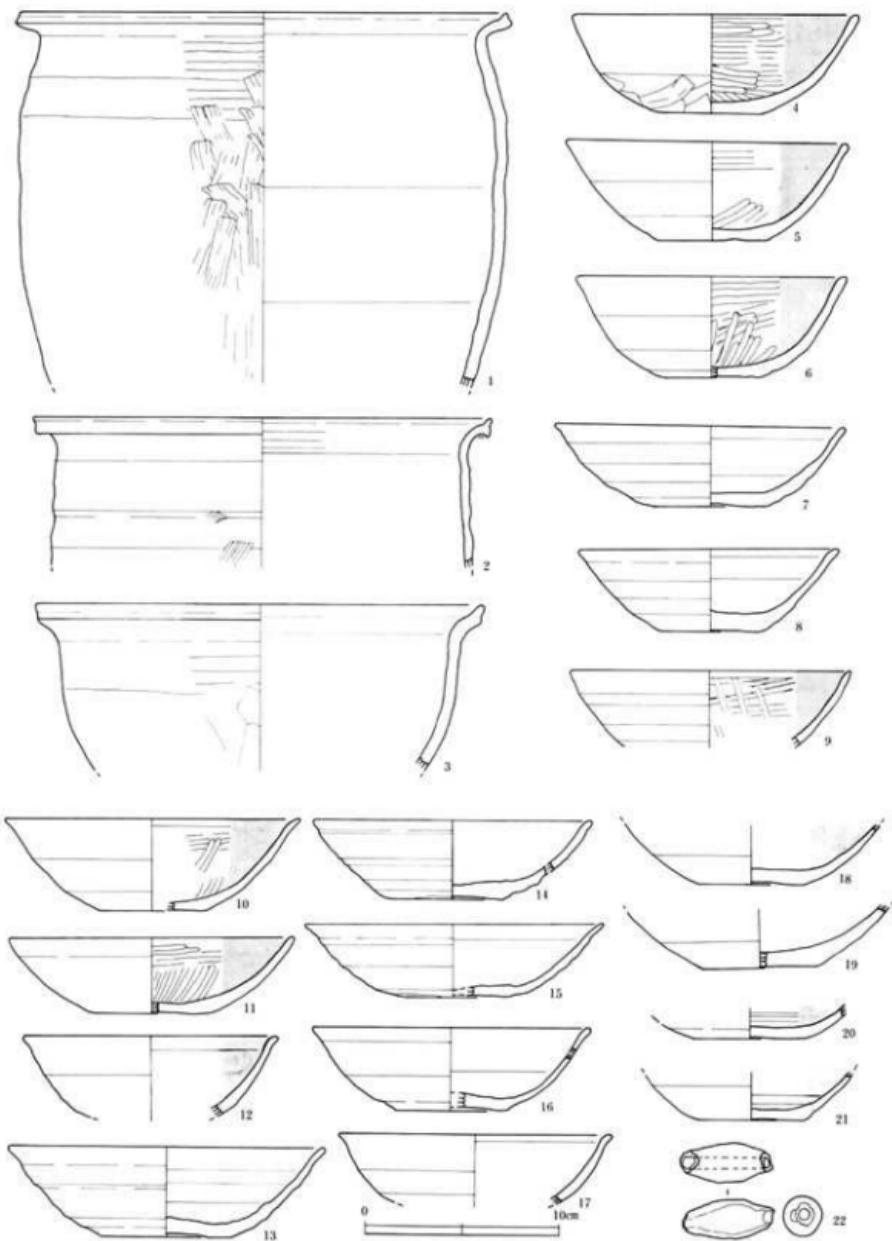
が最も可能性がある。P₃・P₄については、住居に伴うものか判断しかねた。

出土遺物は、1号住居からは甕、小形甕、砥石それに住居周辺で土製紡錘車を探集している（第24図）。環形土器が欠落するため、詳細な時期は不詳だが、8世紀後半の年代を与えておく。

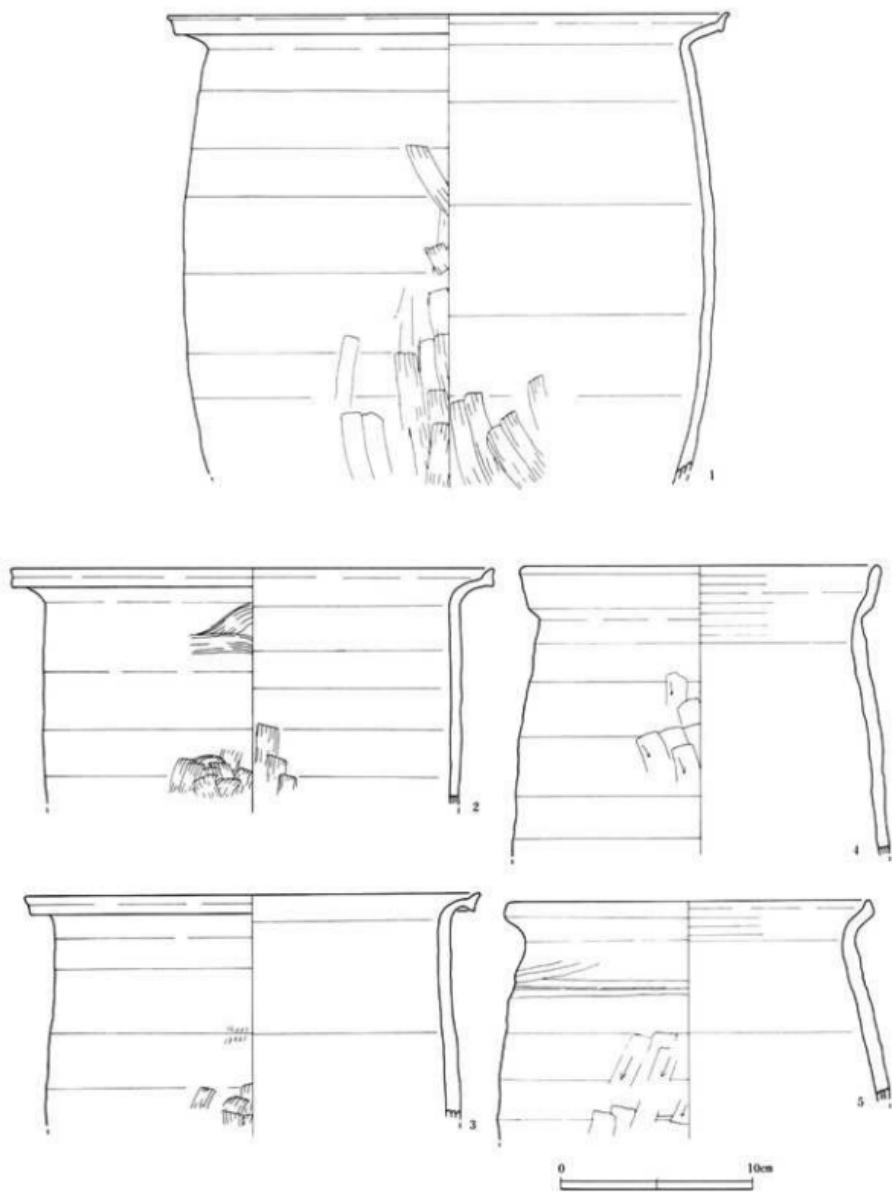
2号住居跡は、糸切りの内黒坏、赤焼土器が伴出する（第25図）。甕は口縁が直角に開き、ロク



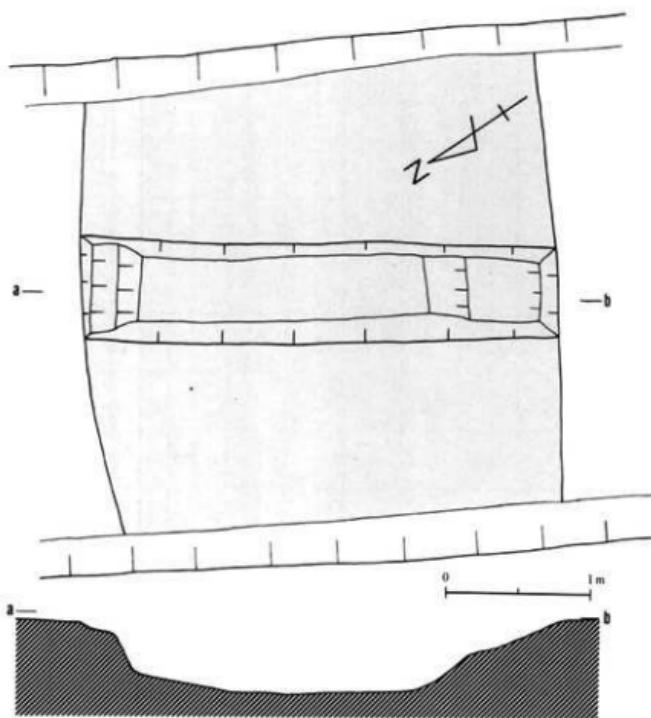
第24図 観音堂冲遺跡出土遺物(1)



第25図 観音堂冲遺跡出土遺物(2)



第26図 観音堂沖遺跡出土遺物(3)

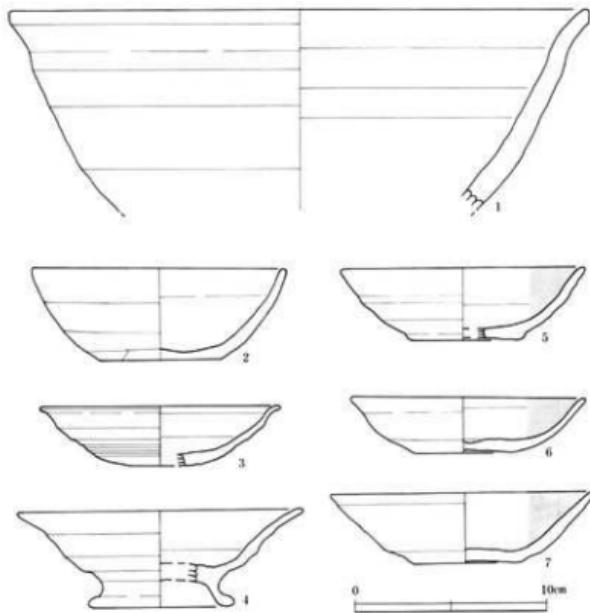


第27図 観音堂沖遺跡溝状遺構

口整形の後、ケズリが成される。2は、やや還元されて焼き上がり、青灰色を呈する。3は、シルト質の軟らかい胎土で、鉢状の器形となる。同様の胎土は、壇(10・17)にもみられる。須恵器は出土していない。年代は10世紀後半を想定したい。

T₃南側で検出した溝状遺構は、巾3.0～3.3m、深さ約50cmで、N60°Wの傾きを持つ。埋土は、ほぼ単一的な層からなるが自然堆積で、水成痕跡は確認できなかった。断面は北側に比べ南側が緩く立ち上る。水路工事部分のみの調査であるため、この溝がどのように走るのかは確認できなかったが、池向遺跡との区画の機能を持つ可能性もある。

遺物は、甕(第26図)と壺(第28図1)、壇(同2～7)があるが、埋土出土品は第28図4・7で、他は周辺部からの出土である。甕はいずれも口縁が急に外反し、ロクロ調整後、ケズリ

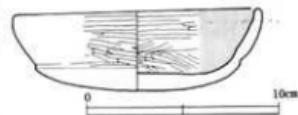


第28図 観音堂沖遺構出土遺物(4)

が施される。環は比較的浅いものが多く、高台を持つもの（4）もある。2号住居跡と比べより新しい段階に属するのであろうが、10世紀後半～11世紀の年代観を提示しておく。

第29図の環は、T₂の北部で出土したもので、内面（外面も？）黒色処理、全体にミガキが施されている。外面に段が付き、内面にも稜がみられる。口唇はやや内側に入り込む。入念なヘラミガキから、8世紀中～後半の年代を与えておきたい。

今回の調査は、前述したように道路・水路に係る僅かな部分の調査であったが、全体として8世紀代の資料は北側に、10世紀代は南側から出土する傾向が把握できた。自然堤防あるいは沖積部の微高地の遺跡でも時期により微妙な占地の変化を表わす例として捉えておく。なお、須恵器の貧弱さは、在地生産の終焉時期を示すものと評価できる。



第29図 観音堂沖遺跡出土遺物

3. 農免農道整備事業〔前沢2期地区〕関連調査

(1) 明後沢遺跡

所在地：胆沢郡前沢町古城字明後沢

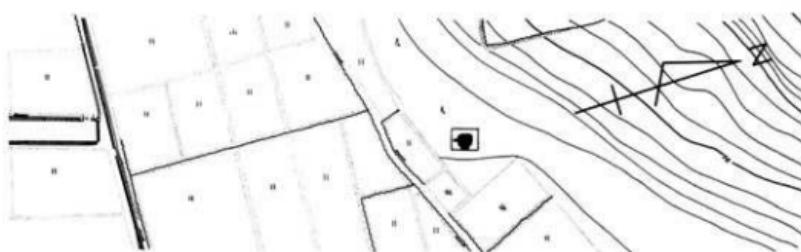
調査期日：平成6年2月1日～3日

本遺跡は胆沢扇状地の扇端部にあって、台地北側を松の木沢川、南側を明後沢川に開析された舌状台地上に立地し、標高75m～76mを測る。また本遺跡は、胆沢城跡で出土している瓦と同種の瓦が出土することで知られており、古代城柵跡の可能性が指摘されているが、過去の数次の調査においても、未だ遺跡の性格については不明である。昭和38年に県史跡に指定されている。

平成3年度に台地両端を南北に横断する形で一般農道を建設する計画が岩手県農政部から提出された。県史跡の範囲からは外れるものの、台地全体を遺跡の範囲として捉えていたため、試掘調査を実施することとした。平成3・4年度過去2年の試掘調査においては、計画路線内で遺構・遺物ともに検出されなかったが、今年度の工事予定区の試掘調査において、台地北側縁辺部で竪穴住居跡1棟が検出された。試掘調査結果に基づき、事業者側と保存についての協議を行ったが、過去2年の工事において既に道路は8割方完成しており路線を変更することが難しいこと、また古代布目瓦に伴う遺構ではなく竪穴住居跡1棟のみであること等を勘案し、やむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することとした。



第30図



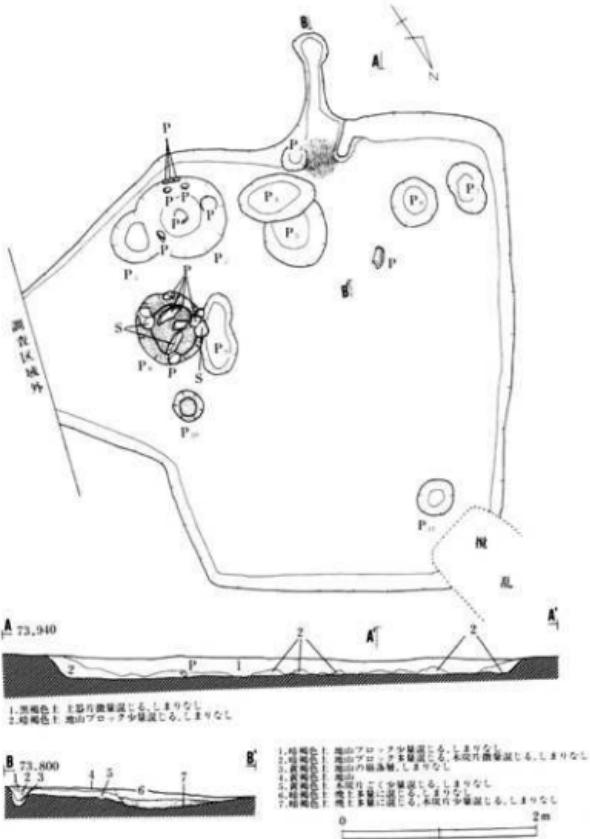
第31図 前沢町明後沢遺跡遺構配置図

【遺構】(第32図参照)

今回調査した遺構は平安時代の竪穴住居跡1棟であり、先述したとおり、台地北側縁辺部西寄りに位置する。検出面の標高は73.8m前後を測る。主軸を南北方向から約30°東に寄る方向に持ち、基本的には1辺5m×3.5mの方形であるが、東に張り出し部分を持つ。壁高は住居南側で22cmほど、北側で15cmを測る。埋土の黒褐色土は堆積に時期差があると思われるが細分することはできなかった。

カマドは住居南側壁のほぼ中央部につくられており、南東方向に約1mほど伸びる煙道を持つ。煙出しは径35cmほどのピット状に掘り込まれており、検出面からの深さ20cm、煙道底面からの深さ12cmほどを測る。

ピットは大小11基検出された。カマド付近で検出されP₁・P₂及びP₄・P₅は貯蔵穴と思われる。P₄・P₅は切り合っており、新しいピットP₄は長軸80cm、短軸50cmの楕円形を呈し、深さ28cmを測る。P₅も楕円形を呈し、推定で長軸80cm、短軸65cmであり、深さ25cmである。いずれも埋土には多量の焼土・木炭片を含むが、土器は細片しか見られない。P₂は径85cmほどの円形を呈すピットで深さ35cmを測る。多量の土器が出土しており、これが住居最終段階の貯蔵穴と



第32図 明後沢遺跡竪穴住居跡平・断面図

考えられる。

住居の全体プランは不明であるが、この住居に伴う柱穴としてはP₆・P₁₁が考えられる。P₆は径45cm、深さ22.8cmを測る。P₁₁は径38cm、深さ15.6cmを測る。他に柱穴の可能性があるものとしてはP₁₀が考えられる。大量の焼土で埋まるなど埋土の様相は異にするが、径32cm、深さ15cmを測るピットである。

P₈・P₉はこの住居の性格を考える上で重要なピットと考えられる。P₈は径70cm前後、深さ10cmほどのピットであるが、埋土はほとんど焼土であり口縁部周辺に石を配した痕跡を残し土器が集中する。この様相から土器焼成ピットの可能性が高い。P₉はそれに伴うピットであろう。

以上のことから、この住居跡は土器製作工房としての機能を持つ住居と考えられる。

〔遺物〕(第33図参照)

この住居内からは大量の土師器が出土している。特にP₂・P₈に集中しているが、図化できたものについて第33図に掲げた。以下その概略について述べてみたい。

1は口径20cm、底径11.2cm、器高28.1cmを測り、最大径を胴部に持つ壺である。体部外面下半にケズリが見られる。口縁部は外反するが、口唇部がやや内湾する様相を見せる。胎土は粗く、径1～2mmの小石が混じる。P₂内からの出土である。

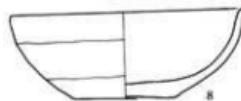
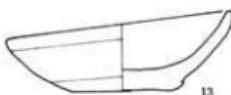
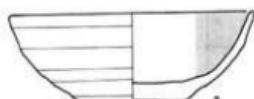
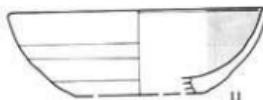
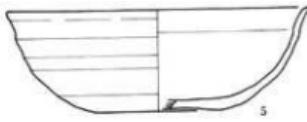
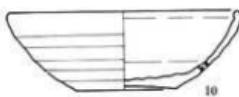
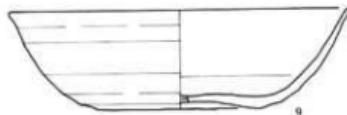
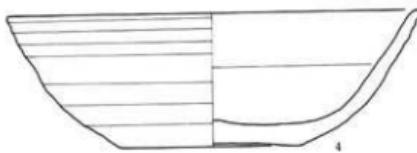
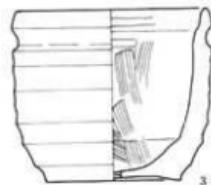
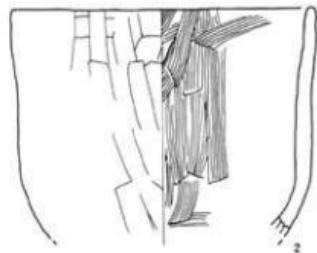
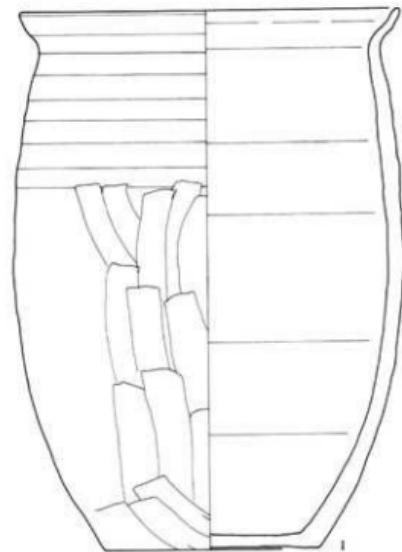
2はP₂出土の小型壺である。推定口径は16cmほどであり、体部外面はケズリ、内面はハケ目調整が見られる。口縁部は体部から僅かに外傾気味に立ち上がる。3も小型壺であり、住居床面からの出土である。口径10.3cm、底径7cm、器高9cmの小さいものである。体部内面にハケ目調整が見られる。底部切り離しは回転糸切りにより、無調整である。

4～13は土師器壺である。4はロクロ成形の大型壺であり、口径21.7cm、底径9.5cm、器高7cmを測る。底部切り離しは回転糸切りにより、無調整である。P₂からの出土である。5～8もP₂から出土した土師器壺である。いずれも底部切り離しは回転糸切りによる。7のみが内面に黒色処理が施されている。

9・10は住居埋土中から出土した土師器壺である。9は口径17.8cm、底径8.8cm、器高5.2cmを測るやや大型の壺である。9・10いずれも回転糸切りによる底部切り離しである。

11～13はP₈から出土した土師器壺である。11は推定口径13.7cm、底径6.8cm、器高4.4cmの壺で内面黒色処理が施されている。12は高台付壺であり、口径13.7cm、器高5.1cmを測る。13は完形の壺で口径12cm、底径5.7cm、器高3.5cmを測る小形のものである。胎土は小石混じりで粗く、焼成も稚である。底部切り離しは回転糸切りにより、無調整である。

以上遺物の概略について述べたが、概ね11C代の遺物と考えられる。



第33図 明後沢遺跡出土遺物

4. 広域農道整備事業〔上野地区〕関連調査

(1) 北館G遺跡 (位置図: 第34図)

所在地: 一戸町一戸字北館

調査期日: 平成6年1月20

~23日

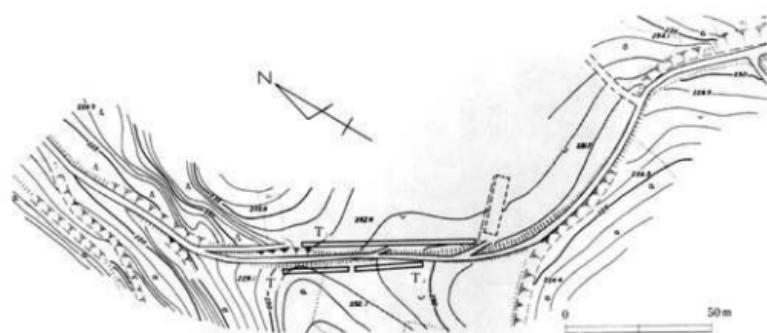
遺跡は国道4号一戸バイパスの東、開析された高位段丘と丘陵との接触部、崖錐起源の丘陵上に位置する。標高は約230mを計る。

遺跡の主体は、調査区東側の丘陵先端部から南斜面にあると思われたが、試掘の結果遺物包含層が確認できたので道路拡幅部分について調査を実施した。なお、南東に隣接する上野I遺跡に関しても試掘調査を実施したが、畠地造成等によって八戸火山灰層まで削平されており、遺構・遺物は確認できなかった。

調査は、事業予定地に沿い、現道の東側にT₁、西側にT₂、T₃を設定し実施した。T₁の北端、T₂の北部は、基盤のシルト岩が表土直下に露出し、遺物・遺構は確認できなかった。またT₁の南側は、一端深くなった地山の火山灰層が再び上昇し、小規模な鞍部を呈することが現道の断面で確認された。それより南東の畠地については、用地取得がなされておらず、後日改めて調



第34図



第35図 北館G遺跡遺構配置図

査することとした。T₁の南部分は、深い沢状の地形に黒色土等が堆積していたが、遺物の出土範囲は、T₁中央部付近を南限としており遺跡の範囲外と判断した。

第36図にT₁トレンチ中央部での土層断面図を掲げた。第1層から3層までの約50cmは、近年の畑地造成による再堆積土であり、僅かに破碎された土器片が出土するのみであった。

第4層は、旧表土で、一部固く踏み締められた旧道跡も確認できた。第5層は暗褐色土層で、炭化物が混じり、遺物が下位から出土する。以下、基本的な土層説明を記す。

第6層 白色火山灰層。層厚3~8cm。トレンチ内に部分的に

堆積する。純粋な層というより7層のブロックを混じ
えるところもあり、再堆積、流れ込みの可能性がある。

第7層 黒褐色土。層厚25~30cm。炭化物を含む遺物包含層。下位になるにつれ、浮石粒
を多く含む。

第8層 暗褐色土。中軸浮石を多く含む。無遺物層。

第9層 褐色土。中軸浮石や南部浮石と思われる橙色浮石を含む。無遺物層。

第10層 黒褐色土。層厚約40cm。南部浮石を含む層。無遺物層。

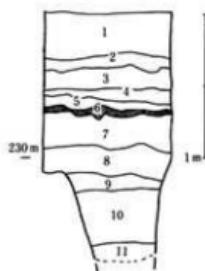
第11層 明褐色土。八戸火山灰層と思われる。無遺物層。

調査は、第8層まではトレンチ全体を掘り下げたが、第7層の中位で遺物の出土は終わり、以下の層からは確認できなかった。また、いずれのトレンチでも遺構は検出できなかった。

第37~42図に出土遺物を掲げた。層位的には、第41図の弥生土器群は、T₁トレンチ中央部付近を中心とした第5層下部から第7層最上位にかけて出土している。一方、第37~40図の縄文土器群は、より広い範囲の第7層上位を中心に出土した。漸位的ながら、一応の層位関係は認められた。ただし、第6層とした白色火山灰層は、これまでの知見に従うなら平安時代の降下とされる十和田a火山灰と推定される。弥生土器の一部はこの6層の上位や6層中から出土したものもあった。よって、再堆積土の可能性を指摘しておく。

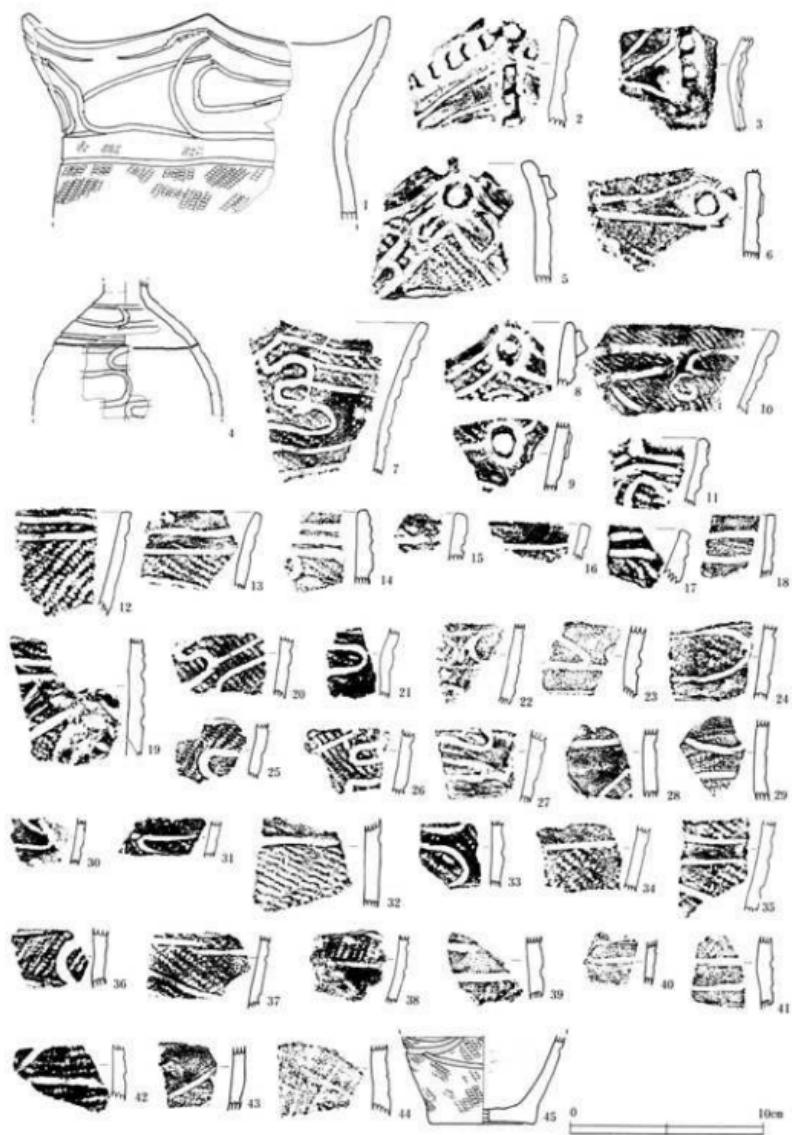
縄文土器群は、大半が後期前葉に属するもので、刻目を持つ隆線の貼付（第37図2・3）、ボタン状貼付文（同5~9）、S字状文等の特徴を有する。また、破片資料であるが、切断蓋付壺（同4）も、この時期特有の遺物であり、焼成前の切断面は、表面から連続突き刺しによって身部と蓋部が切り離されたことがわかる。

僅かであるが、後期終末~晩期初頭の資料もある。第38図1は三叉文を持つ深鉢の口縁。入組文に規制された三叉文であり、後期最終末と捉えたい。2~7は無文土器、2は晩期初頭の

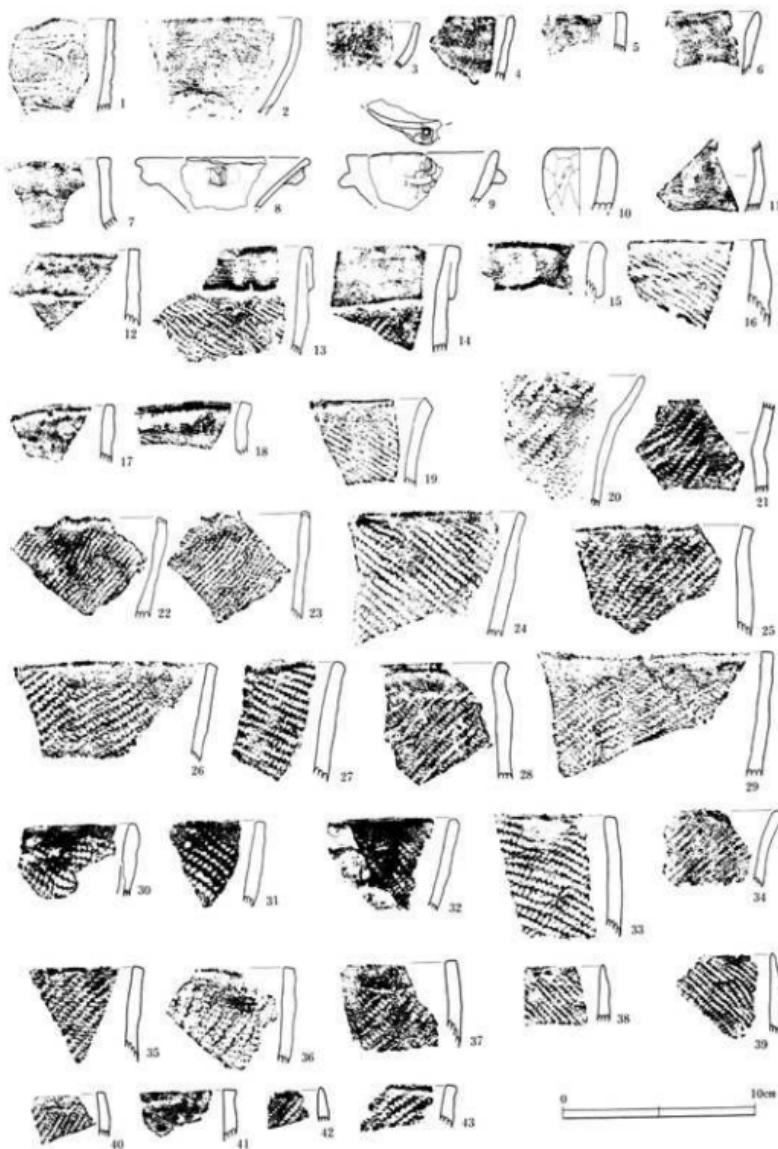


第36図

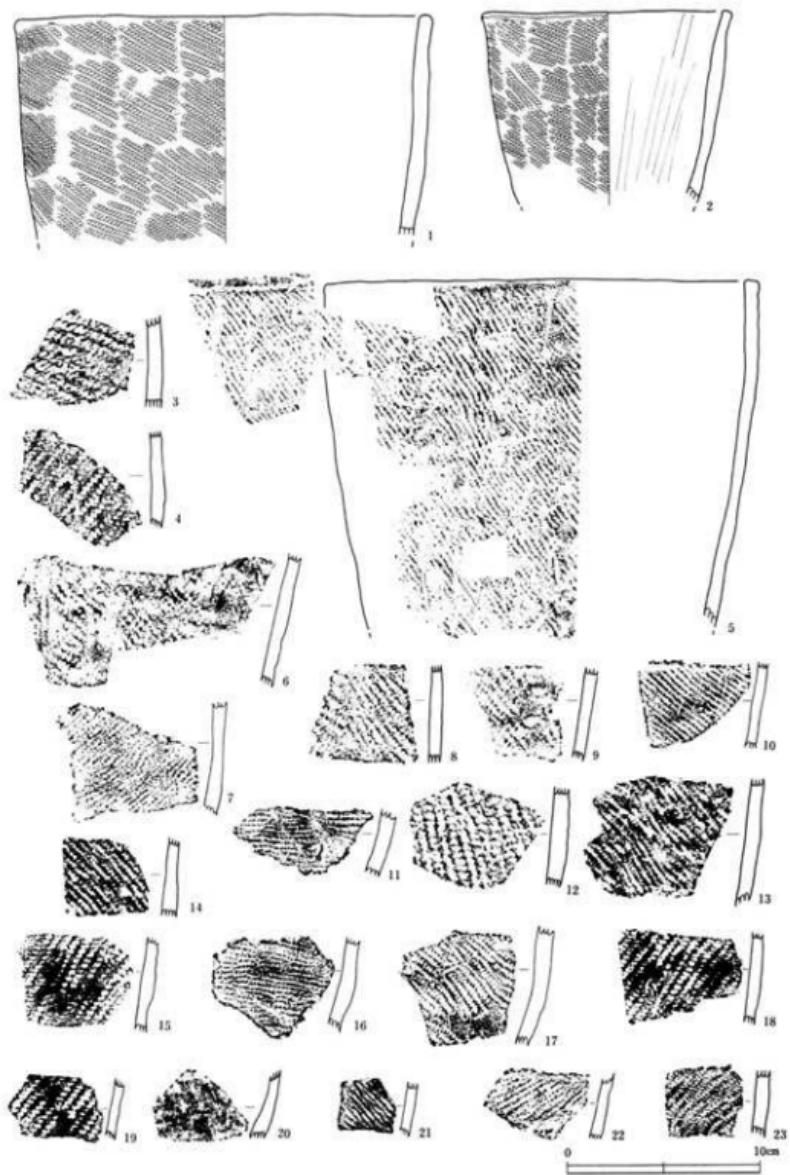
北館G遺跡T₁土層断面図



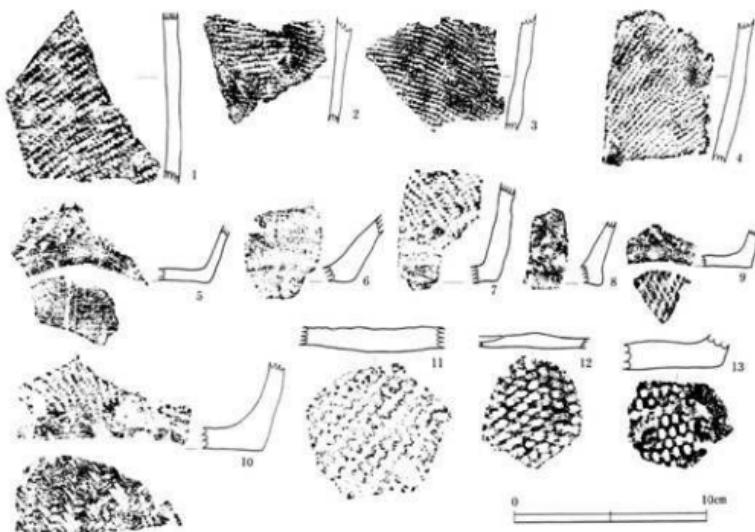
第37図 北館G遺跡出土遺物(1)



第38図 北館G遺跡出土遺物(2)



第39図 北館G遺跡出土遺物(3)



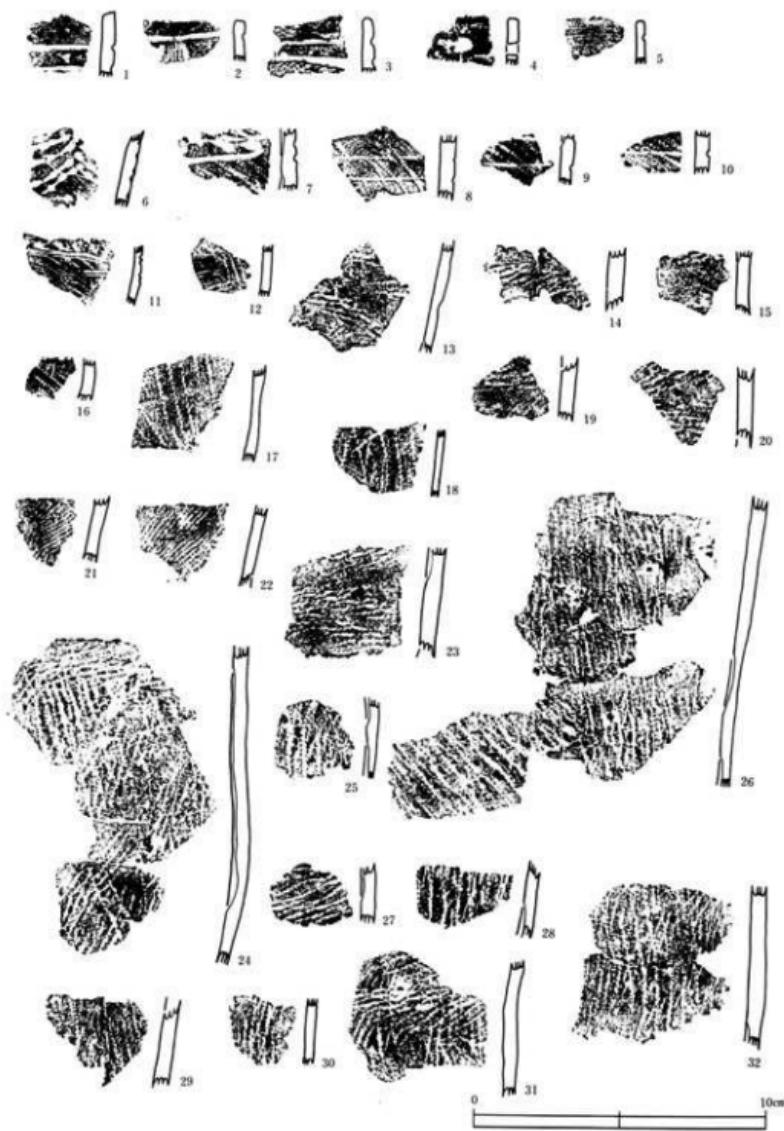
第40図 北館G遺跡出土遺物(4)

楕形となろうか。同図11は、やはり晩期初頭の壺形土器の可能性がある。

粗製土器では、折り返し口縁を持つもの（同12～15）等のほか、頸部がやや広がるもの（同19～21）、口唇に刻みを施すもの（同22・23）がある。20・21と第40図5の底部は同一個体であり、底部の山形状沈線などから弥生土器の可能性も棄てきれない。

第41図に示した弥生土器は、いずれも小破片であるため、縮尺を2分の1にした。1～5は口縁部資料、波状口縁または突起を持つもの（1・3）もある。2は口縁に平行する沈線の下に帶繩文を配する。これらは焼成・胎土から同一個体と思われる。4は焼成不良で、焼成後に穿孔される。6は斜めからの連続押し引き刺突文が付く。7は沈線+刺突、8～11は平行沈線が横走する。いずれも沈線施文後に繩文が施される特徴を持つ。以下、胴部の破片では、繩文（21・22）や原体末端を意識的に施文するもの（13・24・31）、不整燃糸文等がみられる。器内面のナデ調整も特徴的である。破片数は多いが、個体数としては3～4個にとどまろう。

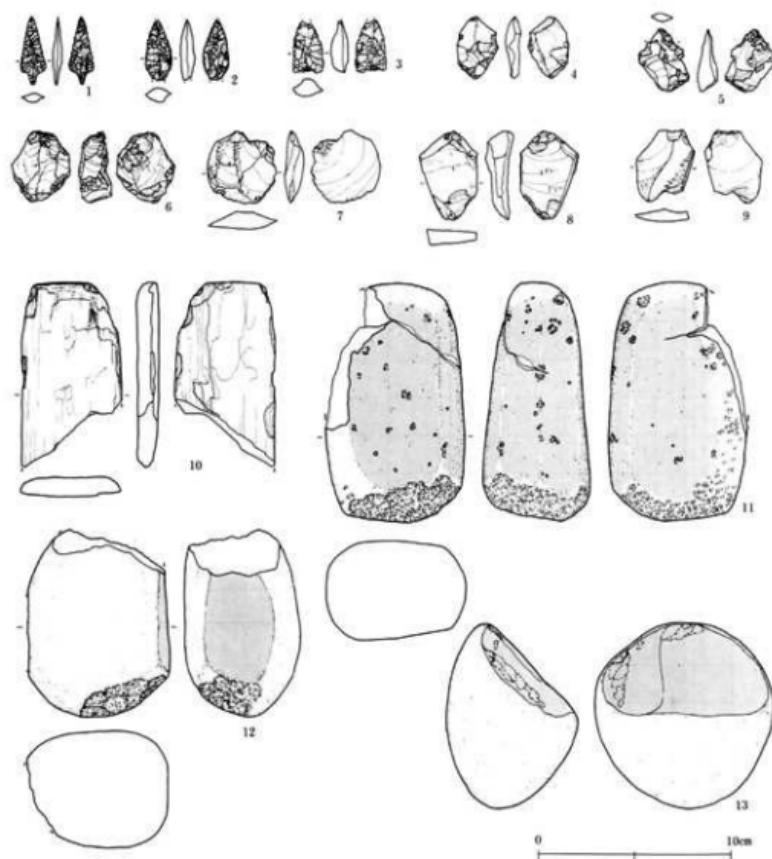
いずれも器形が窮屈るほどの資料はないが、器厚の割には、比較的大形の壺形土器になろう。天王山式あるいは赤穴式と呼ばれる弥生後期の一群に基本的には包括されるが、それらに特徴的な交互刺突文を欠く点、沈線で区画された帶繩文の存在等から、より新しい段階に位置付けられることもできよう。



第41図 北館G遺跡出土遺物(5)

石器は比較的貧弱であった。第42図に示した資料で、11は6層上面からの出土、他は7層からの出土であり、縄文時代に含まれる。剥片石器の石材は、珪質頁岩が多用される。4・5・8のような両極打法によると思われる不整形な剥片も目に付く。10は、扁平な硅化木化石を素材とし、一部側縁に加撃し、幅を矯正している。利器となるか否かは不詳である。

安山岩や砂岩の円礫を利用した擦り石、叩き石（11～13）は、熱を受け、破損している例が少なからずみられた。



第42図 北館G遺跡出土遺物(6)

5. 早池峯ダム建設関連調査

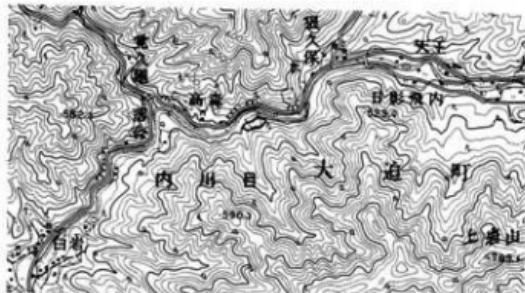
(1) 人中遺跡（位置図：第43図）

所在地：大迫町内川目人中

調査期日：平成5年9月10

～13日

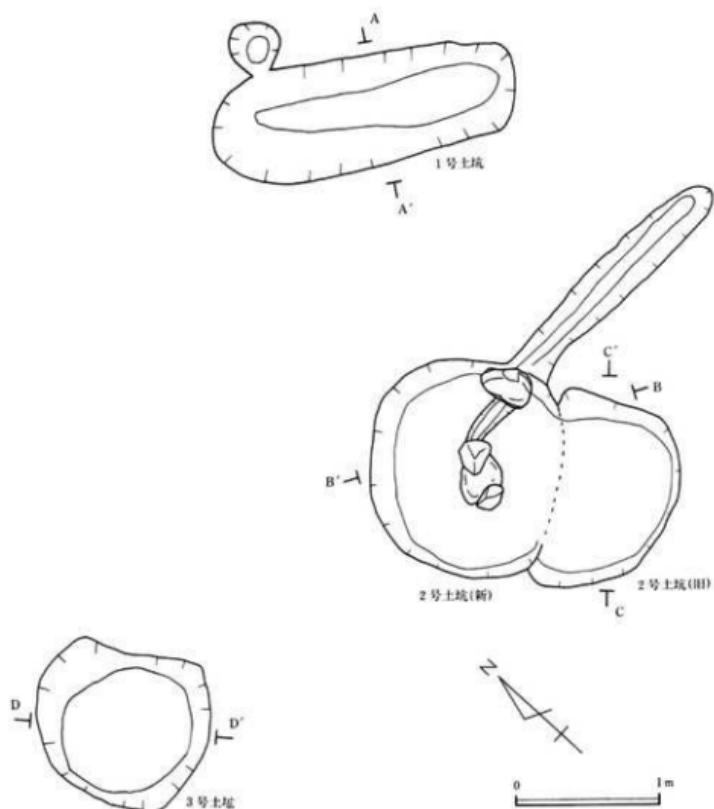
遺跡は、稗貫川の南岸、標高約300mの丘陵斜面に位置する。平成3年度に実施した



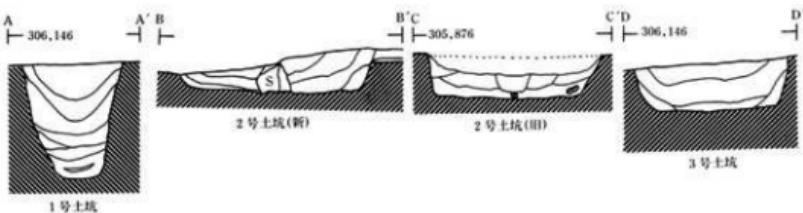
第43図



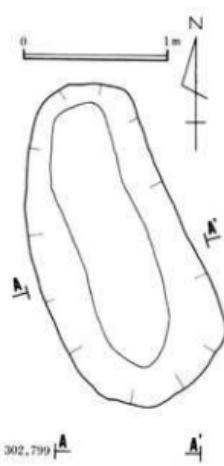
第44図 人中遺跡遺構配置図



第47図 人中遺跡東地点遺構平面図



第48図 人中遺跡東地点土坑断面図



第45図 平・断面図
人中遺跡西土坑

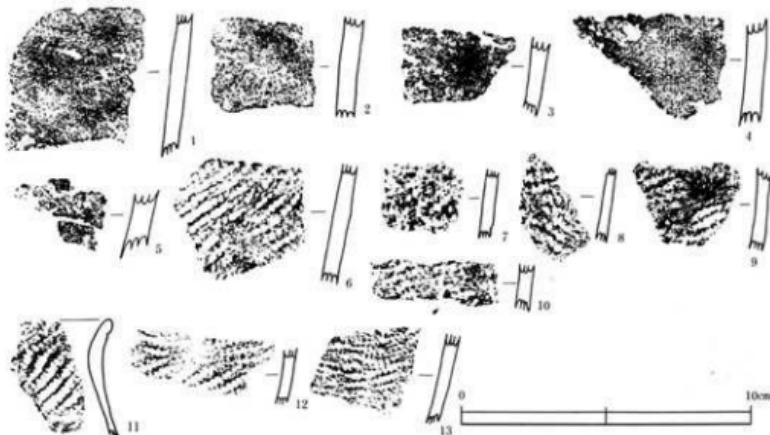
試掘調査で確認していた東西二地点について調査を実施した。

東地点では、1～3号土坑、それに陥し穴状の遺構一基を検出した。1号土坑は長軸220cm、短軸75cmで、遺物は出土していない。2号土坑は新・旧二基から構成され、旧土坑は径約130cm、北東部を新土坑によって切られる。床面はほぼ平坦となる。新土坑は陥し穴も切るが、重複部分には亜角縫が置かれ、いわば閉塞したような形となる。また中央部にも縫がおかかる。陥し穴の西端が丁度この部分となる。床面は平坦で、埋土は自然堆積を示す（第48図）。

3号土坑は、径約120cm、平面形はやや不整形な円形となる。床面はやはり平坦で、埋土も自然堆積を示す。

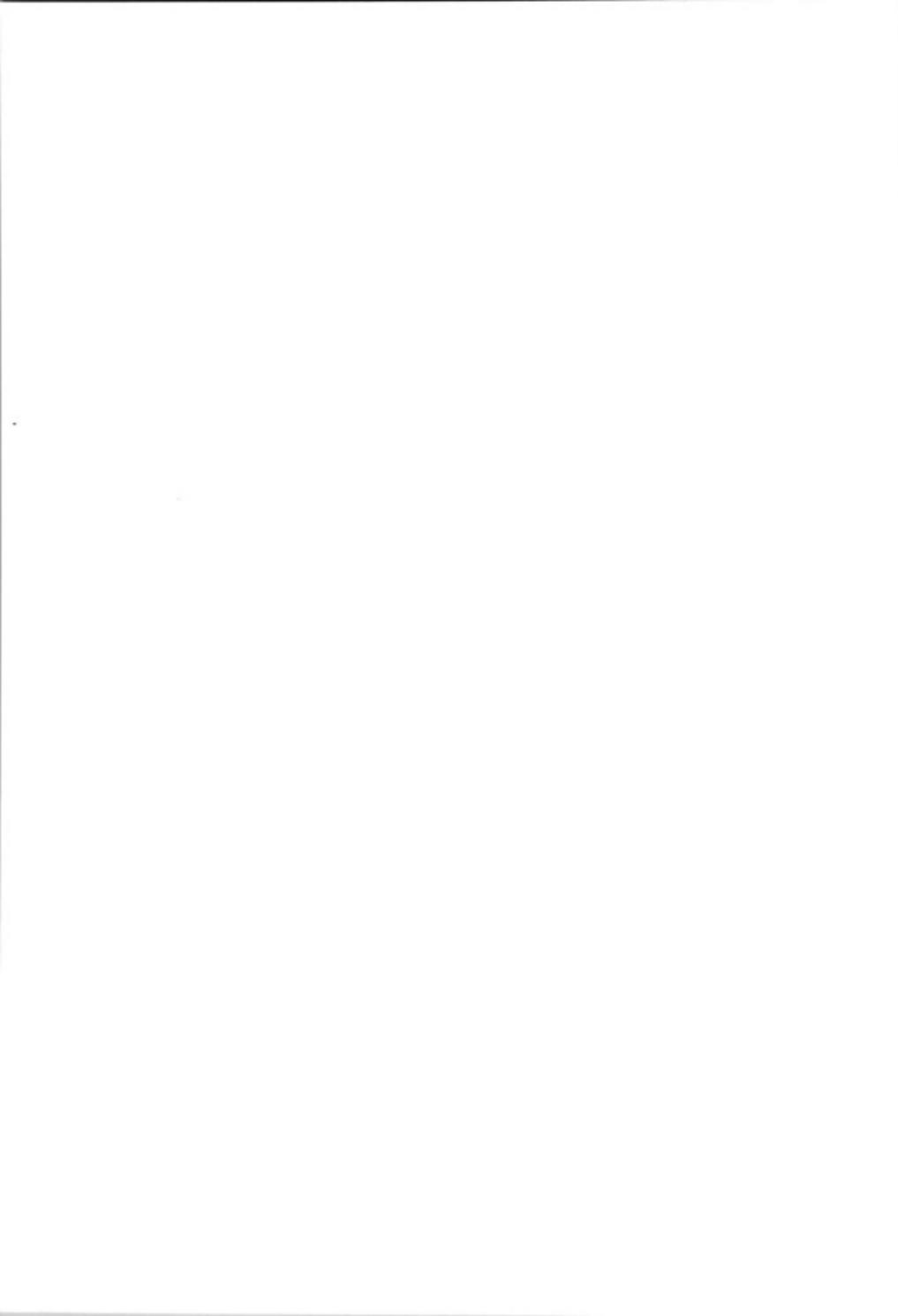
遺物は、2号（新）から第46図1～10が、3号土坑から11～13が出土している。粗製土器であるが、下膨れの器形（11）から縄文中期中葉と推定できる。

西地点では、長軸220cm、幅110cm程の土坑一基を検出している。埋土は自然堆積、深さは約70cmであった。やや幅広ながら、東地点1号土坑と同様に陥し穴と思われる。遺物は今回の調査では出土しなかったが、試掘調査の際、近接した地点で、縄文中期（大木8b式）の土器を採集している。



第46図 人中遺跡出土遺物

II 試掘調査



1. 県営ほ場整備事業〔宮手・稻藤地区〕関連調査

(1) 上平沢新田遺跡

所在地：紫波郡紫波町上平沢新田

調査項目：平成5年12月6日

本遺跡は上平沢川左岸の低位段丘縁辺部に立地し、標高は135m前後を測る。東北自動車道が本遺跡の西側を南北に縱断する形で走り、昭和15年に発掘調査が実施されている。調査の結果、平安時代の板材使用の堅穴住居跡・掘立柱建物跡等の遺構に伴い、墨・墨書き土器・「萬年通宝」などの遺物が出土しており、普通の集落と違い政治的性格の集落の可能性が指摘されている。

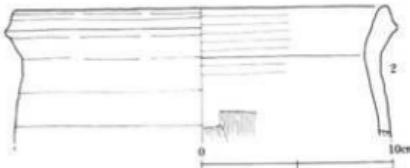
平成6年度以降、東北自動車道の東側の水田で県営ほ場整備事業が計画されているため、遺構の有無・検出面までの深さ等、実施設計のための事前資料を得る目的で試掘調査を実施した。

第51図に示したとおり、本遺跡内で工事が予定される区域について、 T_1 ～ T_{10} のトレンチを設定し調査を実施した。調査の結果、 T_2 ・ T_3 及び T_5 ～ T_{10} では遺構・遺物とともに検出されなかったが、 T_1 ・ T_4 で遺物が出土している。

T₁で地表からの深さ60cm前後の木炭片の混じる暗褐色土中から、須恵器壺(第50図1)が出土している。口径13.5cm、底径6.4cm、器高4.5cmを測るもので、底部切り離しは回転糸切りによる。また、T₄東半部で地表から20cm前後の暗褐色土中から、ロクロ成形土師器壺の口縁部(第50図2)が出土している。口径は推定で19.6cmほどのもので、体部内面に一部ハケ目調整の痕跡が見られる。T₁・T₄ではいずれも遺構までの検出は行わなかったが、平安時代の遺構の存在が予想されるため、実施計画段階で除外あるいは設計変更することとした。



第49頁



第50図 上平沢新田遺跡出土遺物



第51図 上平沢新田遺跡トレンチ配置図

2. 東北横断自動車道秋田線建設関連調査

(1) 本内川遺跡

本遺跡は、和賀川の支流南本内川の左岸の段丘上に位置する。この段丘の山際には崖錐性の疊が随所にみられる。遺跡中央には南北に細い沢が流れる。今回の調査区域は、この沢の西側にある。東側部分は、平成5年度に発掘調査を実施している。

その調査対象区域に、T₁～T₆のトレーニングを設定した。いずれのトレーニングも表土直下に暗褐色土が薄く堆積する。ただしT₅は崖錐起源の疊層が、T₆には暗褐色土の上位にシルト質の黒褐色土がみられた。またT₄西側の高まりは、土砂の捨て場である。

遺構は、大きな疊が散在するため明確に把握はできかねたが、T₆中央部で炭化物の集中する焼土等を検出している。

遺物は、T₄・T₅・T₆を除くトレーニングの暗褐色土から出土した。第54図1は、縄文後期中葉深鉢の口縁、表裏面共入念なミガキがなされる。2は晩期中葉頃に位置付けられようか。3・4は、やや磨耗し、胎土の砂粒が露出する。壺形土器の肩部（3）と胴下半（4）に相当する破片。4には縄文が施された可能性もあるが判然としない。5は、晩期初頭に比定できようか、深鉢の口縁部付近の破片。

6以下は粗製深鉢の破片、7～8の縄文は比較的細く、斜め回転施文もみられる。10は粗い撚糸文を付す。一部回転方向を変え重複させ網目状の効果を出す。縄文後期前半に位置付けられようか。

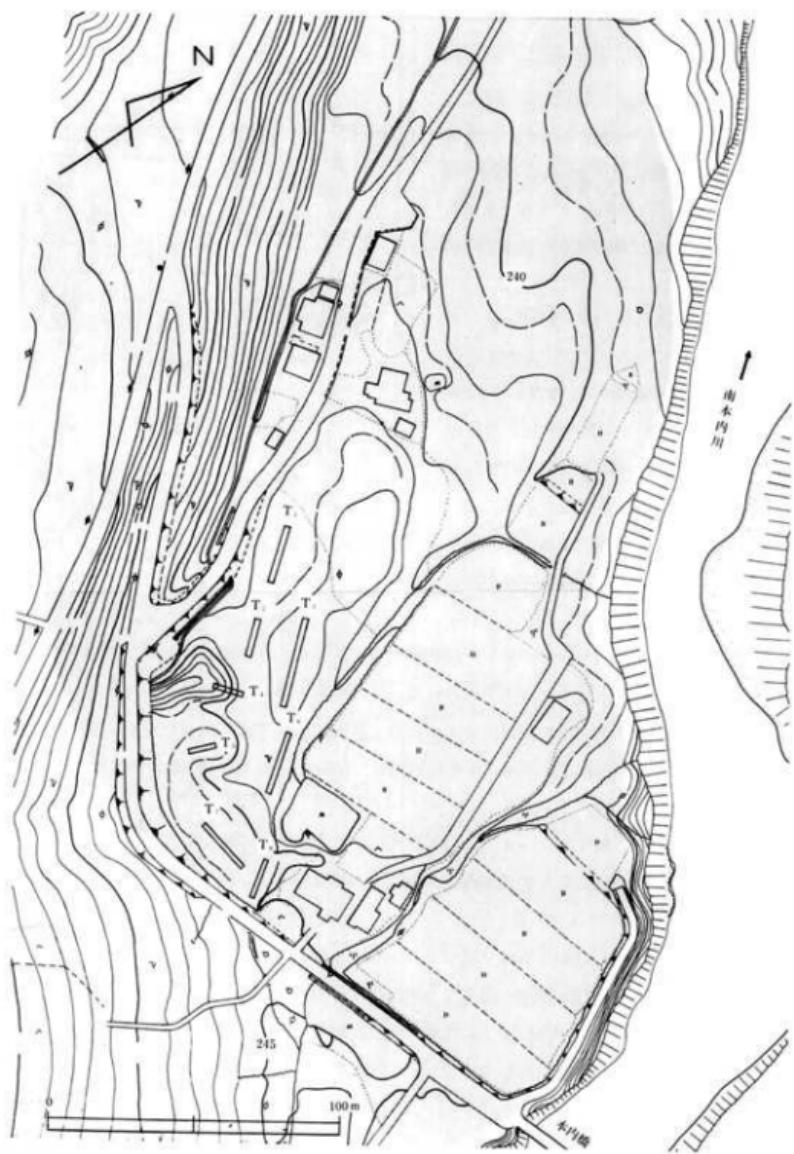
本遺跡は標高240～245mの比較的平坦な面に位置するが、火山灰土の堆積は薄く、表土から巨疊が露出し、そのまま段丘疊層へ達すると思われた。従って、旧石器を含む土層の堆積は弱いと考えたため、縄文土器が出土した層準で確認調査を中止している。

大まかな傾向ながら、縄文土器については、晩期を主とする資料が調査区北寄りに、後期は中央部に分布することを指摘できる。

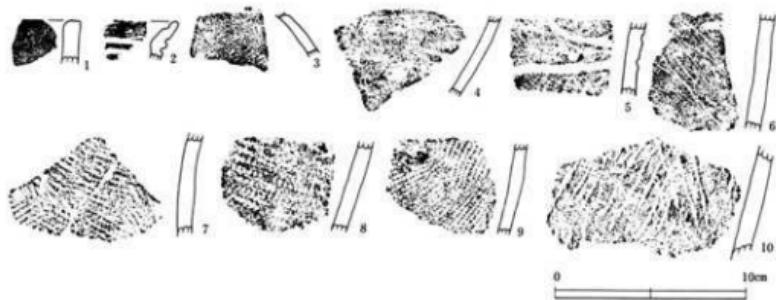
以上の調査結果から、本遺跡については、平成6年度に発掘調査を実施することとした。



第52図



第53図 本内II遺跡トレントレンチ配置図



第54図 湯田町本内II遺跡出土遺物

3. 町道種市漁港線道路改良工事関連調査

(1) ゴッソー遺跡（位置図：第55図）

所在地：種市町第18地割64

調査期日：平成5年3月15～16日

本遺跡は種市町役場の南東約1km、国道45号とJR八戸線の間の海岸段丘上に位置する。標高は20～23m、東端でやや高さを増すが、基本的には東向きの緩斜面である。

遺跡の北側は沢によって開析され、南側は畑地造成により改変されている。遺跡自体は、国道の西側へのび、主体はむしろそちらにあると思われる。

事業予定地に沿い、T₁～T₄のトレンチを設定し、調査した。国道に近いT₁・T₂では、

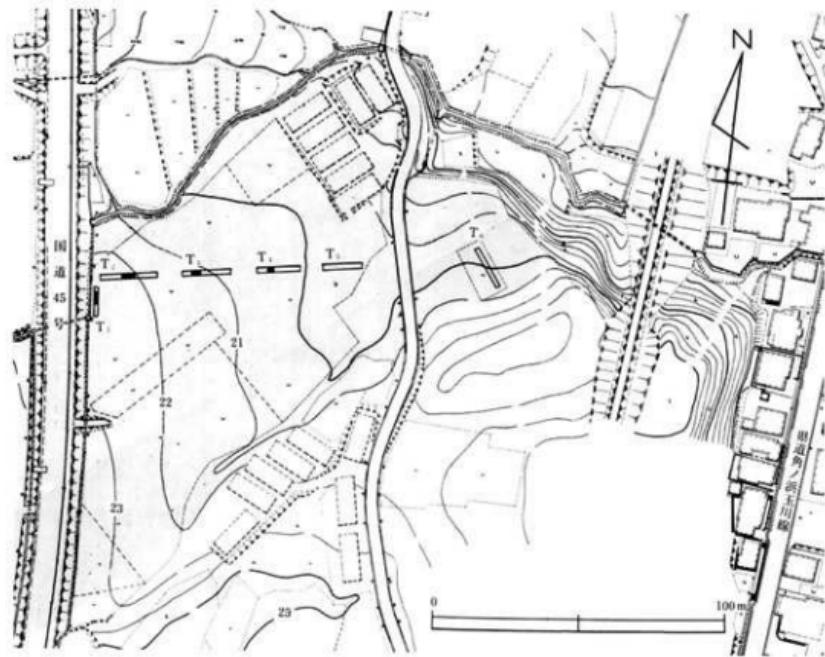
表土の下に、黒色土・黒褐色土が厚く堆積する。その下位には南部浮石層を混じえる黄褐色砂質粘土層がみられ、深さは60～70cmに達する。T₃以東は、この黄褐色砂質粘土層が次第に上昇し、T₄付近では表土直下までとなり、南部浮石が表土に露出するほど削平されている。

遺物は、主にT₁～T₄までの調査区西側から出土している。第57図1は、太目の縄文を回転施文するが、その直前段の末端も表出される。胎土には多量の繊維を含む。2も胎土に繊維を含んだ底部付近の破片。おそらく丸底になると思われる。

3は折り返し口縁をもつ破片、4～8は斜縄文を施した土器片である。



第55図



第56図 ゴッソ遺跡トレーンチ配置図

1・2は、縄文前期前半に位置付けられる。また、図示はしなかったが、丁寧な継位のケズリ・ミガキを持つ小破片が1点出土している。層位は不明だが、早期中葉貝殻文系土器の調整に類似する。

3～8は、縄文中・後期に比定できよう。なお、T₆を設置した畑において、縄文後期の小破片を1点採集している。T₆からは遺物・遺構等は確認できなかったが、遺跡範囲として捉えることとし、この事業区については、平成6年度に発掘調査を実施することとした。



第57図 種市町ゴッソ遺跡出土遺物

4. ふるさと農道整備事業〔牧田・福伏地区〕調査報告書

(1) 牧田貝塚

(位置図：第58図)

所在地：陸前高田市

気仙町字牧田

調査期日：平成5年

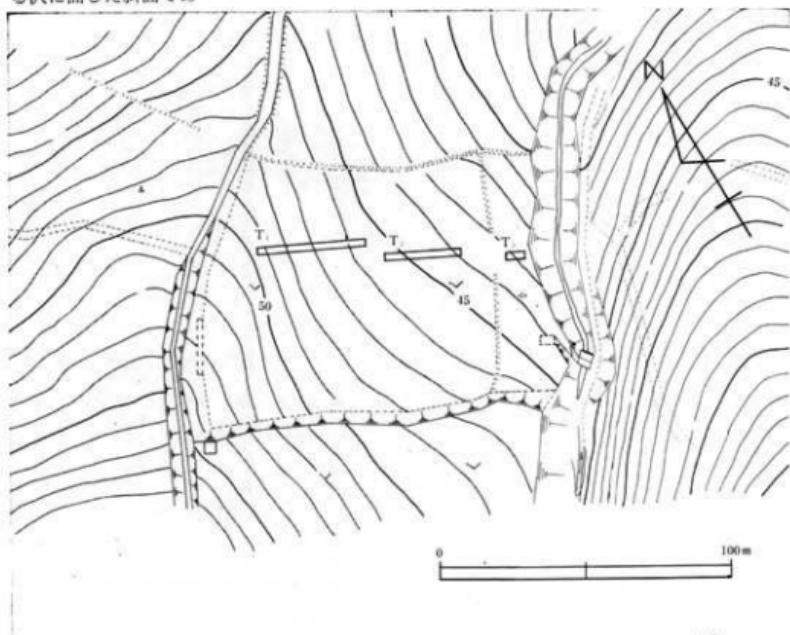
9月13日

本遺跡は、広田湾の西側に位置し、縄文前中期の稀少な貝塚として知られていた。

今回の事業地は、この貝塚主体部から西に外れた地点で、北流する沢に面した斜面であ



第58図



第59図 牧田貝塚トレンチ配置図



第60図 牧田貝塚出土遺物

る(第59図)。事業地に沿い設定したトレンチのうち、T₁では畑の耕作土の下に基盤である粘板岩体が露出する。ただし、T₁東端には炭化物まじりの茶褐色粘土質土が堆積し、そのなかに土器片が含まれるなど、遺構と思われた。T₂は、表土下に暗褐色土(約50cm)と黄褐色粘土質土(約30cm)があり、沢に向うにつれ厚くなり、遺物も出土する。これらの下には土壇状の遺構の存在も予想される。T₃は、山部から流れ出す沢により侵食され、崖錐性の疊層となり西端部に僅かに遺物包含層が残存する。

遺物(第60)は、縄文前期の大木3・4式を主とする。ただし貝層や動物遺骸は確認できなかった。本遺跡については平成6年度に発掘調査を実施することとした。

5. 農免農道整備事業〔浜岩泉地区〕関連

調査

(1) 浜岩泉I遺跡（位置図：第61図）

所在地：田野畑村浜岩泉

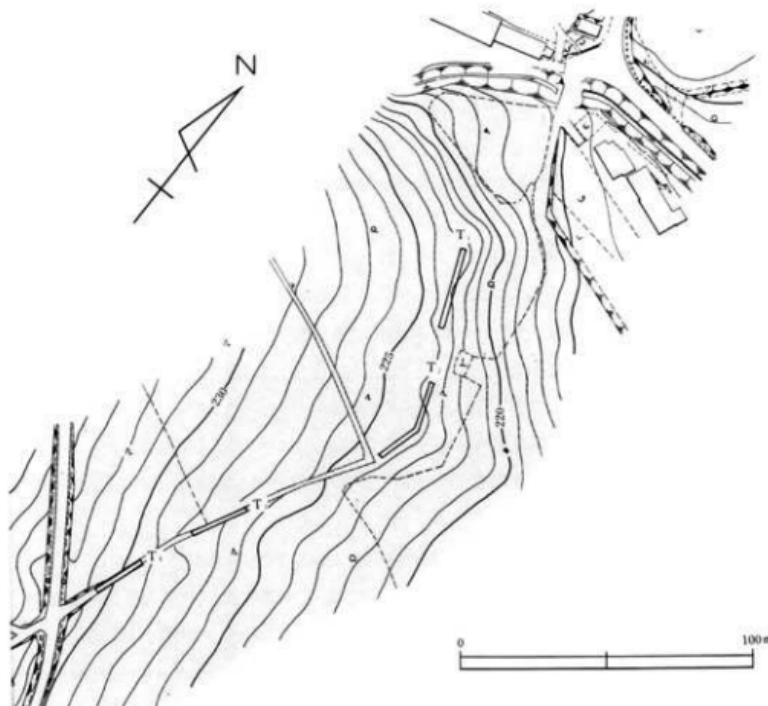
調査期日：平成5年10月4・5日

本遺跡は、国道45号と県道岩泉大芦線との交差点の北西部に位置し、標高約230mの海岸段丘上に所在する。遺跡北側は小さな沢に向かう斜面となり、その沢を挟み、縄文時代晚期の浜岩泉II遺跡と対峙する。

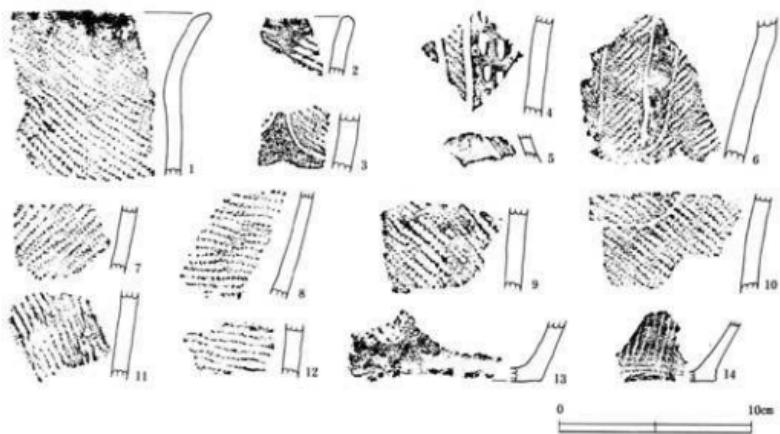
事業地区は、かつて林道として利用されてきており、その東側は牧草地、西側は山



第61図



第62図 浜岩泉I遺跡トレンチ配置図



第63図 田野畠村浜岩泉I遺跡出土遺物

林となる。東側部分の地形はかなり改変されたものと思われる。

調査は事業予定地に沿い、T₁～T₄のトレンチを設定し実施した。基本的層位は、表土の下に暗茶褐色土（2層）、黒褐色砂質土（3層）、黄褐色砂質粘土（4層）、黄褐色粘土（5層）となる。

T₁中央部で縄文中期の土器片がまとまって出土している。T₂北端部4層上面で、角礫を伴う焼土を検出している。全体のプランは把握できなかったが、縄文時代中期の竪穴住居跡の可能性が高い。T₁とT₂の間には、3層やや厚く堆積し、小規模ながら沢状の地形であったことがうかがえた。T₃・T₄ともに遺物は出土するが、かっての林道工事により5層まで削平されている部分も少なくない。ただし、T₄南端では、直径約50cmの土塊が検出され、土器もまとまって出土した。同様の地形は南に若干のびて、斜面となるが、トレンチを設定し確認したものの遺物・遺構は検出できなかったため、この部分は除外し、T₁～T₄に至る範囲について、平成6年度に発掘調査を実施することとした。

出土遺物のうち、T₁の土塊に伴出したものは現地に残してきた。第63図1～10は、T₁中央部から出土したもの。大木9式に相当する。11・12は、T₂中央部付近の出土。胎土に白色砂粒と纖維を僅かに含む。縄文時代前期前半に位置付けられようか。14は、弥生時代後期の底部付近の破片。底部は入念にミガキがあり、あまりリスレはみられない。胴下端には一段左撚りの縄を二段に押圧する。体部には条間のあいた撚糸文が施される。器内面は横位のナデがみられ、黒色と茶褐色の付着物がみられる。

6. 広域農道整備事業〔軽米・九戸地区〕関連調査

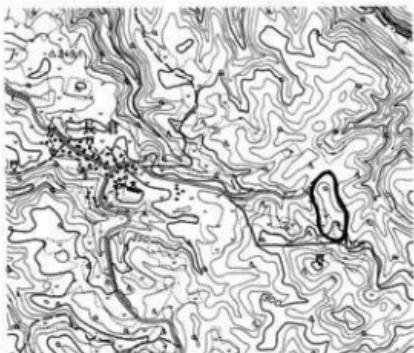
(1) 長倉Ⅰ遺跡

所在地：九戸郡軽米町大字長倉字一本木

調査期日：平成5年9月30日

本遺跡は、東西を沢により開析を受けた丘陵頂部から中腹部の緩斜面上に立地し、標高290m～310mを測る。

軽米町では、昭和50年代半ばに大規模畑作は場整備事業が実施されており、それに伴い長倉地区でも発掘調査が実施されている。今回の調査区は、昭和55年に「長倉遺跡」として発掘調査された地点から、沢を



第64図

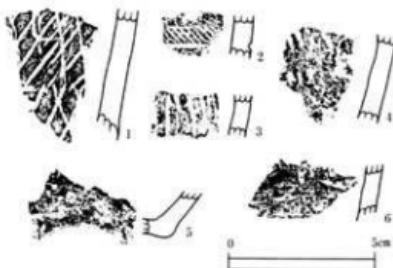


第65図 長倉Ⅰ遺跡トレーンチ配置図

挟んで東へ約100mほど離れた地点で標高で約20mほど高い。昭和55年の調査によれば、量は少ないが縄文前～後期の土器片が出土し、土坑が2基検出されている。

今回の試掘調査は、広域農道の計画路線が本遺跡北端を東西に横断するため実施したものである。予定路線内は立木が未伐採であったため、立木を避けてT₁・T₂のトレーニチを設定した。

試掘調査の結果、いずれのトレーニチにおいても、地表から約20cmの表土直下の黒褐色土中から縄文時代後期初頭の土器片（第66図）が数点出土している。重機による調査であるため、さらに掘り下げての遺構検出は行わなかったが、縄文時代の遺構の存在が十分予想されるため、事業者側の同意を得て、平成6年度に記録保存のため発掘調査を実施することとした。広域農道建設のため本遺跡に係る発掘調査予定面積は約2,000m²である。



第66図 軽米町長倉I遺跡出土遺物

7. 北本内ダム建設関連調査

（1） 本内遺跡（位置図：第67図）

所在地：北上市和賀町和賀仙人

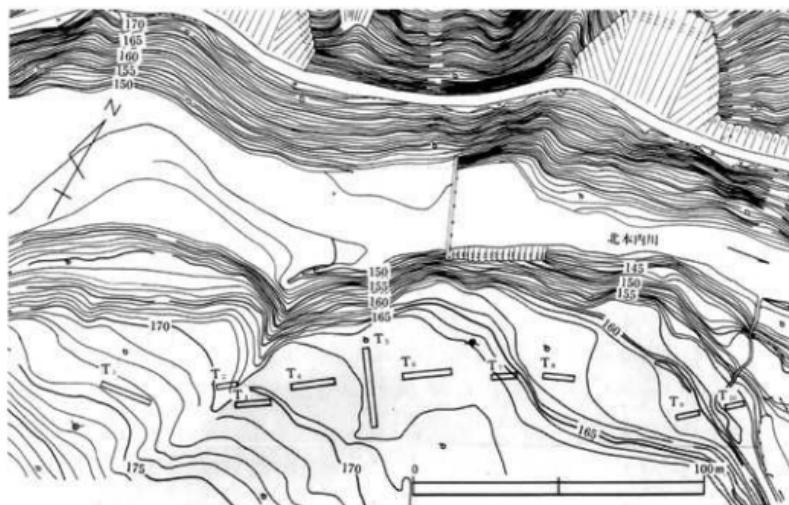
調査期日：平成5年10月27～29日

本遺跡は、北上市の西方、和賀川と北本内川との合流点の北西に位置する。遺跡の東部を流れる北本内川は、深い峡谷を刻むが、本遺跡周辺では、3～4段の小規模な段丘地形を形成する。遺跡はこのうち高位の2段、標高は170m程のほぼ平坦な面に広がるものと推定できる。

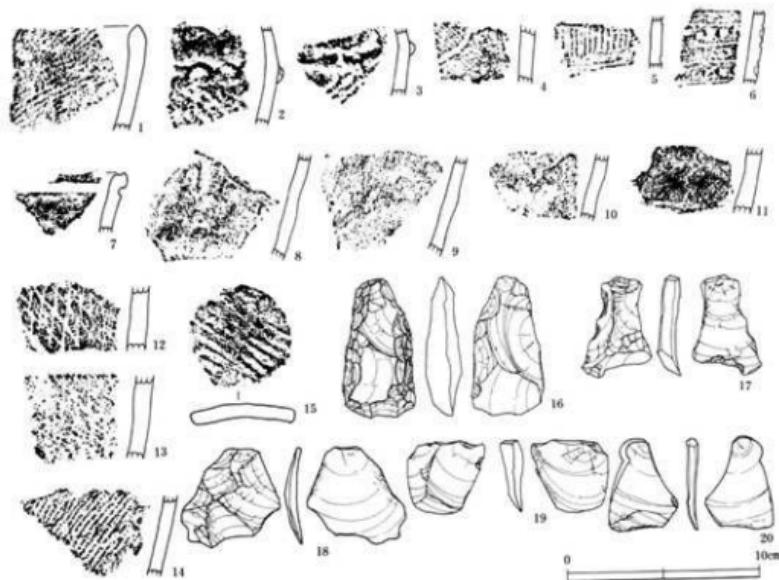
遺跡南東部には、かつて民家が複



第67図



第68図 本内遺跡トレンチ配置図



第69図 北上市本内遺跡出土遺物

数存在し、いくぶん地形の改変が行われている。また、上位の平坦部には、水田や畑地が営まれていたが、現在は荒れ地と化し、背後の山地から流れ出す沢が複雑に交わり、一部は池状の湛水ともなっている。

今回の調査は、北本内ダム建設に伴う工事用道路の建設に係るものである。その事業予定地に沿い、T₁～T₁₀のトレンチを設定し、人力により調査を行った。T₁・T₂は、表土直下に崖錐起源の疊層が発達し、遺構・遺物共に確認できなかった。T₃は、小さな沢に張り出した部分で、表土直下に黒褐色土が比較的厚く堆積する。ここからは縄文晩期を主とする土器片が出土した。T₄は、黒褐色土の発達は弱いが、亜角礫を立てた遺構を検出した。周辺から遺物が出土しなかつたため性格・年代等は不詳である。T₅では、川側部分で焼土遺構を検出した。土器は散布するものの、焼土には一部還元した色合いをもつところもあり、年代は特定できなかった。

T₆・T₁₀は、低い面のトレンチであり、礫を混じえた青灰色砂層や砂層が堆積するだけで、遺構・遺物は確認できなかった。

出土した遺物（第69図）は、縄文後期初頭（1～4・12・13）、後期末～晩期（5～7・11）の土器片のほか、土器片を利用した円盤状土製品（15）、石窓（16）等が出土している。石器は後期初頭の土器に伴うと推定される。

本遺跡については、現在北本内川を渡る橋が危険なため、工事用の仮橋梁が完成した後に、T₃からT₆にいたる部分について発掘調査を実施することとした。

8. 鷹生ダム建設関連調査

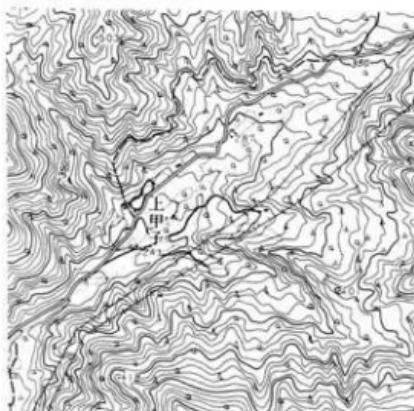
(1) 上甲子遺跡（位置図：第70図）

所在地：大船渡市日頃市町上甲子

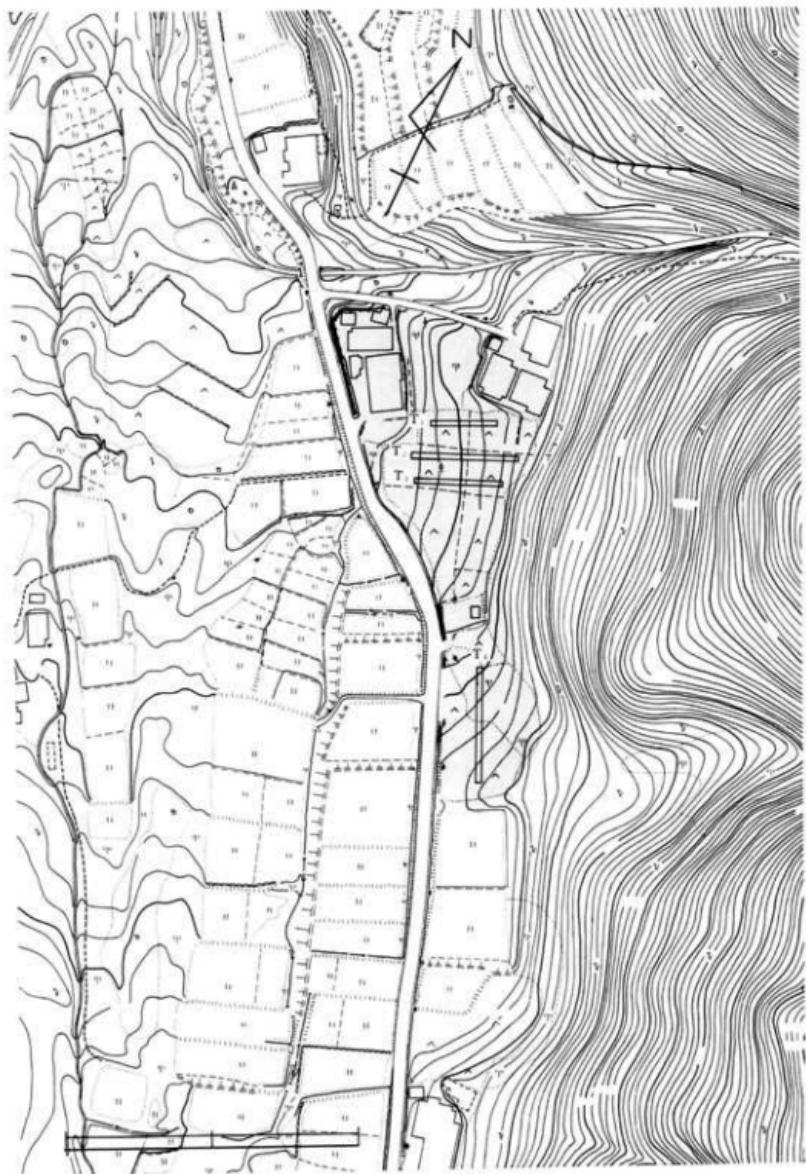
調査期日：平成5年6月21～23日

遺跡は、大船渡市の北東部、五葉山を水源とする鷹生川の右岸に位置する。周辺は白亜紀の安山岩・砂岩等の基盤が侵食され、河床にそれらの巨礫が散乱する。山際には、小さな沢ごとに崖錐性体植物が発達し緩やかな斜面が形成される。本遺跡もこのようない立地をとる。

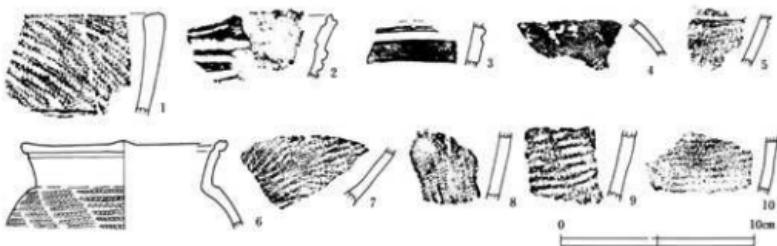
遺跡は宅地等に利用された部分は既に消失していると考えられ、また県道を挟んだ部分については、水田造成により削平され



第70図



第71図 上甲子遺跡トレンチ配置図



第72図 大船渡市上甲子遺跡出土遺物

たと推定する。

$T_1 \sim T_3$ は、民家の廃棄物等で攪乱されていたが、 $T_2 \cdot T_3$ 中央部付近で、土坑状の落ち込みを検出している。これに隣接する沢によって形成された崖縁部に T_4 を入れ確認したが、表土直下に疊が堆積するのみで、遺構・遺物は検出できなかった。

第72図に出土遺物を掲げた。1は縄文後期中葉の深鉢。口唇断面は内側に肥厚する。口縁部文様帶には、やや太目の縄文が縱位回転される。その下位は沈線で区画する。2～7は、弥生時代最初頭に位置付けられるか。高環(2)、浅鉢(3)、壺(4・6・7?)、甕(5)等がある。8～10も、胎土や器内面のナデ調整、斜位回転の縄文施文等の特徴から、同時期に属すると思われる。特に2は、 T_2 の土坑状落ち込みに伴っており、墓塚の可能性も指摘できる。

本遺跡については、湛水部となることから、平成6年度に発掘調査を実施することとした。

9. 県立相模病院移転候補地関連調査

(1) 龍ヶ馬場遺跡 (位置図: 第73図)

所在地: 水沢市龍ヶ馬場

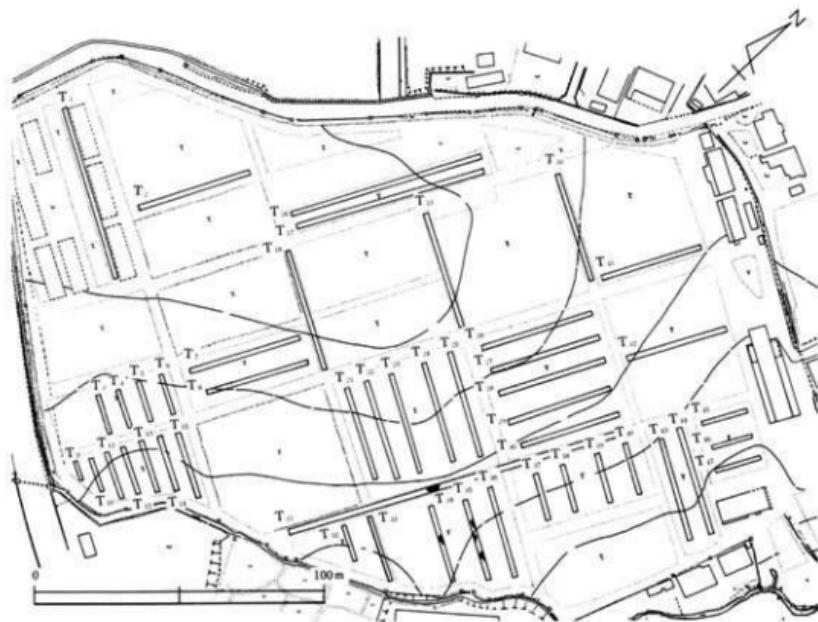
調査期日: 平成5年5月20ほか

遺跡は水沢市街地の南方、標高約65mの中位段丘上に位置し、県蚕業試験場となっている。遺物は、この試験場内の随所で採取できたため、事業予定地全体にわたって試掘トレンチを入れ、調査した。

その結果、より高い西側地区については村崎野浮石層まで削平されており、遺構・遺物は確認できなかった。また、東側地区



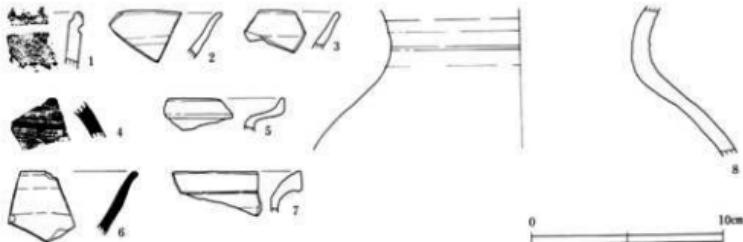
第73図



第74図 龍ヶ馬場遺跡トレーニング配置図

は東端を北流する沢に向かう緩やかな斜面で、その中央部のT₃₁・T₃₄・T₃₅のトレーニングで竪穴住居跡状の遺構を複数検出した。ただし、桑畑の植苗による攢乱が著しく、保存状況は悪い。

出土遺物（第75図）は、1の縄文晩期の口縁部破片を除き、いずれも竪穴住居跡付近から出土したものである。須恵器の壺（3）、坏（6）、ロクロ調整の甕（7・8）などから、9世紀後半～10世紀の年代に比定できようか。育成試験中の苗圃については、後日調整、試掘をするが、遺構が検出された地区を中心に、平成6年度に発掘調査を実施することとした。



第75図 水沢市龍ヶ馬場遺跡出土遺物

10. その他の試掘調査

| 番号 | 事業名 | 事業者 | 道路名 | 所在地 | 調査期日 | 備考 |
|----|------------------|------------|-------------|------|-----------|-------|
| 1 | 新宮は場整備事業・愛宕南部地区 | 朝江土地改良事業所 | 落合 | 江刺市 | 4/14付 | 設計変更 |
| 2 | 〃 | 〃 | 丸 | 江刺市 | 〃 | 設計変更 |
| 3 | 〃 | 〃 | 力石 | 江刺市 | 〃 | 末年度発掘 |
| 4 | 〃 | 〃 | 橋本 | 江刺市 | 〃 | 設計変更 |
| 5 | 〃・玉の木地区 | 〃 | 中ノ木 | 水沢市 | 1/10ほか | 末年度発掘 |
| 6 | 〃 | 〃 | 太田I | 水沢市 | 〃 | 設計変更 |
| 7 | 〃 | 〃 | 太田II | 水沢市 | 〃 | 設計変更 |
| 8 | 〃 | 〃 | 太田III | 水沢市 | 〃 | 慎重工事 |
| 9 | 〃 | 〃 | 玉ノ木I | 水沢市 | 〃 | 設計変更 |
| 10 | 〃 | 〃 | 玉ノ木II | 水沢市 | 〃 | 設計変更 |
| 11 | 新宮は場整備・駒木 | 遠野地方振興局農政部 | 松崎 | 遠野市 | 11/25 | |
| 12 | 〃 | 〃 | 駒木I | 遠野市 | 11/25, 26 | 慎重工事 |
| 13 | 〃 | 〃 | 駒木II | 遠野市 | 12/13-15 | 発掘調査 |
| 14 | 〃・和賀中央第4 | 花巻土地改良事業所 | 上郷 | 北上市 | 12/3 | 慎重工事 |
| 15 | 島免農道整備事業・晴山 | 二戸土地改良事業所 | 外川日野 | 米町 | 11/11 | |
| 16 | 一般国道395号米バイパス | 二戸土木事務所 | 内川原I・II・III | 水沢市 | 11/9・10 | |
| 17 | 〃 | 〃 | 沼田III | 水沢市 | 11/10 | |
| 18 | 一般国道340号道路改良 | 岩泉土木事務所 | 横道日 | 岩泉町 | 12/1 | |
| 19 | 〃 | 〃 | 横道III | 岩泉町 | 12/2 | |
| 20 | 一般国道397号交通安全施設整備 | 水沢土木事務所 | 上郷 | 横田町 | 12/17 | |
| 21 | 主要地方道二戸田子線 | 二戸土木事務所 | 米田平 | 二戸市 | 11/8 | |
| 22 | 一般県道和賀金・崎根武線道路改良 | 水沢土木事務所 | 下齊合東 | 水沢町 | 1/27 | |
| 23 | 〃 | 〃 | 下鹿合 | 水沢町 | 1/27 | |
| 24 | 一般県道水沢木沢線道路改良 | 〃 | 春慶金ヶ崎町 | 水沢町 | 1/28 | |
| 25 | 〃 | 〃 | 開字 | 水沢町 | 1/28 | |
| 26 | 黒生ダム建設 | 黒生ダム建設事務所 | NF18-0338 | 大船渡市 | 6/21-22 | |
| 27 | 〃 | 〃 | NF18-1356 | 大船渡市 | 6/22-23 | |
| 28 | 一般県道東相前沢線道路改良 | 一関土木事務所 | 潮原 | 平泉町 | 12/16 | 末年度発掘 |
| 29 | 崩落防止緊急整備 | 久慈地方振興局林政部 | 東生X | 久慈市 | 8/5, 6 | |
| 30 | 朝武ダム建設 | 朝武ダム事務所 | 大平野II | 朝武町 | 9/16 | 振削範囲外 |
| 31 | 〃 | 〃 | 下屋前I | 朝武町 | 9/17 | |
| 32 | 東北横断自動車道秋田線建設 | 日本道路公団 | 本内II | 湯田町 | 9/29 | 末年度発掘 |
| 33 | 〃 | 〃 | 川尻 | 水沢町 | 9/28 | |
| 34 | 東北新幹線建設 | 新道建設公団 | 川原木 | 岩手町 | 7/4 | 末年度発掘 |
| 35 | 新宮は場整備・頭鹿 | 遠野地方振興局農政部 | MF65-2246 | 遠野市 | 11/24 | |
| 36 | 〃 | 〃 | 晴山 | 水沢町 | 11/24 | |
| 37 | 〃 | 〃 | MF65-2277 | 水沢町 | 11/25 | |
| 38 | 〃 | 〃 | MF65-2342 | 水沢町 | 11/25 | |
| 39 | 新宮経営環境整備・松尾 | 盛岡地方振興局林政部 | 大花森IV | 松尾村 | 6/1 | |

III 分 布 調 査

1、県立胆沢病院移転候補地関連調査

事業者：岩手県医療局

第1表 県立胆沢病院移転候補地関連遺跡一覧

平成5年3月22日～24日

| No. | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 遺構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|-----|------------|------|-----|--------------|-------|---------|--------|-------------|
| 1 | N E26-1254 | 鹿・馬場 | 散布地 | 縄文土器・土師器・須恵器 | 縄文・平安 | 水沢市鹿・馬場 | 新規 | 平成6年度発掘調査予定 |

2、一関遊水地事業関連調査

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

第2表 一関遊水地事業関連遺跡一覧

平成5年3月25日～26日

| No. | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 遺構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|-----|------------|-------------|--------------|--------------|-------|------------|--------|-------------|
| 1 | N E65-2216 | | 墳墓？ | 埠 | 近世？ | 衣川村下衣川字並木前 | 新規 | |
| 2 | -2236 | 衣川橋（並木鼠塚） | 城館跡 | 土堤 | | # # # | | 伝承地 |
| 3 | -2247 | 大手 | # | | | # # # | | # |
| 4 | -2254 | 琵琶橋 | # | | | # # 川端 | | # |
| 5 | -2266 | 泉・城 | # | | | 平泉町平泉字泉・城 | | |
| 6 | -2360 | | 散布地 | 縄文土器・土師器 | 縄文・古代 | 衣川村下衣川 | 新規 | |
| 7 | -2249 | 曹森 | | | | # # 字七日市場 | | 伝承地 |
| 8 | -2320 | 宿（上宿） | 宿場跡 | | | # # 字清水ノ上 | | # |
| 9 | -2341 | 七日市場 | 市場跡 | | | # # 字七日市場 | | # |
| 10 | -2351 | 衣の関道 | 散布地 | 土師器・須恵器 | 古代 | # # # | | |
| 11 | -2343 | 接待館 | # | 土窯・土師器 | 古代・中世 | # # # | | |
| 12 | -2333 | 下宿 | # | 縄文土器 | 縄文 | # # 字上野 | | |
| 13 | -2346 | 六日市場 | 市場跡 | | | # # 字六日市場 | | 伝承地 |
| 14 | N E75-0302 | 中寺寺境内 社跡 | 伽藍遺構・塀・かわらけ地 | | 縄文～中世 | 平泉町平泉字衣闌 | | 国指定特別史跡 |
| 15 | N E76-0000 | 坂下 | 散布地 | かわらけ・陶磁器 | 古代・中世 | # # # 字坂下 | | 貴特別史跡の飛地2カ所 |
| 16 | -0055 | 高館 | 散布地 | 土窯・堀・段・かわらけ地 | 縄文・古代 | # # # 字柳原町 | | |
| 17 | N E66-1215 | 月館1 | 散布地 | 縄文土器・石器 | 縄文 | # 長島字月館 | | |
| 18 | -1226 | 東福寺 | 散布地 寺守跡 | 甕石・縄文土器 | 縄文・中世 | # # # | | |
| 19 | -1255 | 新山櫻現社 | 散布地 | 縄文土器・須恵器 | 縄文・古代 | # # # | | |
| 20 | -1275 | 二反田館 | 城館跡 | 甕 | 中近世 | # # # 字二反田 | | |
| 21 | -2214 | 二反田 | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | # # # | | |
| 22 | -2224 | | 散布地 | # | # | # # # | | |
| 23 | N E76-0294 | 龍・坂 | # # | # | # | # # # 字龍・坂 | | |
| 24 | -0235 | 佐藤屋敷 | 城館跡 | | 中近世 | # # # 字新田 | | |
| 25 | -1279 | 鶴岡館 | 散布地 城館跡 | 甕（？）・堀（？） | 縄文・中世 | # # # 字鶴岡 | | 範囲拡大 |
| 26 | -1383 | 小島館 | # # | 縄文土器 | # | # # # 字古館 | | |
| 27 | -2347 | 猪岡館 | 城館跡 | | 中近世 | # # # 字酒崎 | | |
| 28 | -2060 | 下平 | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | # # # 字下平 | | |

3、家畜改良センター岩手牧場草地造成事業関連調査

事業者：農林水産省家畜改良センター岩手牧場

第3表 岩手牧場草地造成事業関連遺跡一覧

平成5年4月23日

| No. | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 遺構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|-----|-----------|-----|-----|-------|----|--------------|--------|----|
| 1 | KE86-0001 | | 散布地 | 土器・石器 | 縄文 | 南陽村龍225地頭大石瀬 | 新発見 | |

4、県営畜産經營環境整備事業奥羽北部地区関連調査

事業者：盛岡地方振興局農政部

第4表 県営畜産經營環境整備事業奥羽北部地区関連遺跡一覧

平成5年4月21日

| No. | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 遺構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|-----|-----------|--------|-----|---------|----|-------------|--------|------|
| 1 | KE14-1005 | | 散布地 | 縄文土器・石器 | 縄文 | 板尾村松尾5地頭大花森 | 新発見 | |
| 2 | -0009 | 大花森IV | * | | * | | | |
| 3 | -0009 | 大花森III | * | | * | | | 範囲拡大 |

5、県営ほ場整備事業（小友地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第5表 県営ほ場整備事業（小友地区）関連遺跡一覧

平成5年4月21日～22日

| No. | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 遺構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|-----|------------|--------|-----|--------------|-------|------------|--------|------|
| 1 | J E29-2171 | 下川原口 | 散布地 | 縄文土器・土師器・須恵器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字下川原口 | | |
| 2 | -29-0110 | 下川原口II | * | 縄文土器・石器・須恵器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字下川原口 | | 範囲拡大 |
| 3 | -38-1389 | 平在室V | * | 縄文土器・上陶器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字平在室 | | |
| 4 | -39-1390 | 坂の下 | * | 縄文土器・上陶器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字坂の下 | | |
| 5 | -2610 | 坂の下II | * | 縄文土器・上陶器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字坂の下 | | |
| 6 | -2630 | 坂の下III | * | 縄文土器・上陶器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字坂の下 | | |
| 7 | -38-2367 | 坂の下IV | * | 縄文土器・上陶器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字坂の下 | | |
| 8 | -39-2670 | 坂の木 | * | 縄文土器・上陶器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字坂の木 | | |
| 9 | -18-0380 | 坂の木II | * | 縄文土器・陶生土器・土器 | 縄文～古代 | 一戸町小友字坂の木 | | |
| 10 | -0337 | 坂の木III | * | 縄文土器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字坂の木 | | |
| 11 | -0380 | 山井 | * | 縄文土器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字山井 | | |
| 12 | -0355 | 山井II | * | 縄文土器・上陶器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字山井 | | |
| 13 | -1302 | 山井III | * | 縄文土器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字山井 | | |
| 14 | -1320 | 山井V | * | 縄文土器 | 縄文・古代 | 一戸町小友字山井 | | |

6、一般農道整備事業（赤屋敷地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第6表 一般農道整備事業（赤屋敷地区）関連遺跡一覧

平成5年4月21日～22日

| No. | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 遺構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|-----|------------|-----|-----|----------|-------|----------|--------|----|
| 1 | J E28-1284 | 赤屋敷 | 散布地 | 縄文土器・上陶器 | 縄文・古代 | 一戸町能字赤屋敷 | | |

7、広域農道整備事業（輕米九戸地区）関連調査

事業者：二戸土地改良事業所

第7表 広域農道整備事業（輕米九戸地区）関連遺跡一覧

平成5年4月8日～9日

| No | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|----|------------|---------|-----|----------|-------|------------|--------|-----------|
| 1 | I F63-1342 | 長倉II | 散布地 | 磁文土器（前期） | 磁文 | 輕米町長倉字高瀬久保 | 新規 | |
| 2 | -1383 | 長倉小学校校庭 | # | #（後期） | 磁文 | # # # | | |
| 3 | -2399 | 長倉I | 集落跡 | # • 土器 | 磁文・古代 | # # 字一本木 | | 長倉I・IIを統合 |
| 4 | I F64-2034 | 長倉田 | 散布地 | #（前期・中期） | # | # # # | 範囲膨大 | |

8、県営ほ場整備事業（徳田第一地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第8表 県営ほ場整備事業（徳田第一地区）関連遺跡一覧

平成5年4月6日～7日

| No | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|----|------------|------|-----|---------|-------|-----------|--------|----|
| 1 | L E47-2034 | 十文字 | 散布地 | 土器 | 平安 | 美市町西徳田十文字 | 新規 | |
| 2 | L E57-0001 | 谷地中I | # | # • 瓷器 | # | # 北都谷地中 | | |
| 3 | L E47-2078 | 谷地 | # | 磁文土器・土器 | 磁文・古代 | # # 谷地 | 新規 | |
| 4 | L E57-0124 | 難地 | # | 土器 | 平安 | # 開野ヶ難地 | # | |
| 5 | -0181 | 岡村 | # | # • 瓷器 | # | # # 岡村 | | |
| 6 | -1038 | 北都山 | 城郭跡 | # | 古代？ | # 北都山 | | |
| 7 | -1050 | 穂口 | 散布地 | # | 古代 | # # 穂口 | | |
| 8 | -1063 | 田中 | # | # | # | # # 田中 | 新規 | |
| 9 | -1077 | 蓮田 | # | # | # | # # 蓮田 | # | |

9、北上川上流・日形地区築堤事業関連調査

事業者：建設省岩手工事務所

第9表 北上川上流・日形地区築堤事業関連遺跡一覧

平成6年1月18日

| No | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|----|------------|-------|-----|-------|----|----------|--------|-------|
| 1 | O E29-2146 | 中神四日市 | 散布地 | 土器 | 平安 | 花泉町日形字中神 | 新規 | 自然堤防上 |

10、県営ほ場整備事業（和賀中央第四地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第10表 県営ほ場整備事業（和賀中央第四地区）関連遺跡一覧

平成5年6月3日～4日

| No | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|----|-----------|-----|-----|-------|----|-------------|--------|----|
| 1 | ME44-2121 | | 散布地 | 土器 | 古代 | 北上市和賀町横川目36 | 新規 | |
| 2 | -2243 | 羽場 | # | 磁文土器 | 磁文 | # # 横川目下組 | | |

11、農免農道整備事業（新町第一地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第11表 農免農道整備事業（新町第一地区）関連遺跡一覧

平成5年4月3日～4日

| No. | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・道物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|-----|-----------|-----|-----|---------|----|---------|--------|----|
| 1 | MD28-1190 | | 敷布地 | 縄文土器・石器 | 縄文 | 沢内村大字新町 | 新規 | |

12、一般農道整備事業（豊畠地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第12表 一般農道整備事業（豊畠地区）関連遺跡一覧

平成5年4月21日～22日

| No. | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・道物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|-----|-----------|-----|-----|-------|----|---------|--------|------|
| 1 | JE93-0055 | 豊畠Ⅱ | 敷布地 | 縄文土器 | 縄文 | 安代町細野豊畠 | | 範囲拡大 |

13、農免農道整備事業（奥玉北地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第13表 農免農道整備事業（奥玉北地区）関連遺跡一覧

平成5年4月19日～20日

| No. | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・道物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|-----|-----------|-----|-----|---------|----|-----------|--------|-----------|
| 1 | NF81-1358 | | 敷布地 | 縄文土器 | 縄文 | 千厩町奥玉字中日向 | 新規 | |
| 2 | -82-1051 | | # | 縄文土器・石器 | # | 千厩町奥玉字中日向 | # | |
| 3 | -1054 | | # | 石器 | # | 千厩町奥玉字物見石 | # | 事業地外 |
| 4 | -1055 | | # | 縄文土器・石器 | # | 千厩町奥玉字物見石 | # | 事業地外 |
| 5 | -1068 | | # | 縄文土器 | # | 千厩町奥玉字物見石 | # | 一部削平。事業地外 |

14、土地改良総合整備事業（東部徳田地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第14表 土地改良総合整備事業（東部徳田地区）関連遺跡一覧

平成5年5月13日～14日

| No. | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・道物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|-----|-----------|-----|-----|----------|-------|-------------|--------|----|
| 1 | LE47-2256 | 沢川 | 集落路 | 土器器・須恵器 | 古代 | 矢巾町大字東徳田字幅 | | |
| 2 | -2168 | 重島 | 敷布地 | 土器器 | 平安 | 矢巾町大字間野々 | 新規 | |
| 3 | -2284 | 當光坊 | # | 縄文土器・土器器 | 縄文・平安 | 矢巾町大字東徳田當光坊 | # | |
| 4 | -2197 | 天王 | # | 縄文土器・土器器 | 縄文・平安 | 矢巾町大字間野々字天王 | # | |
| 5 | 57-0253 | 新山 | # | 土器器 | 平安 | 矢巾町大字上鶴字新山 | # | |
| 6 | -0351 | 復興堂 | 集落路 | 土器器 | 古代 | 矢巾町大字東徳田 | | |

15、岩手県農業研究センター県北農業技術センター（仮称）関連調査

事業者：岩手県農政部

第15表 岩手県農業研究センター県北農業技術センター（仮称）関連遺跡一覧

平成5年5月17日～18日

| No. | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 別 | 道 横・道 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|-----|------------|-------|-----|---------|-----|-----------|---------|------|
| 1 | I F82-2012 | 和当地Ⅰ | 散布地 | 縄文土器・石器 | 縄文 | 精米町山内字和当地 | | 範囲拡大 |

16、県営ほ場整備事業（宮野目第一地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第16表 県営ほ場整備事業（宮野目第一地区）関連遺跡一覧

平成5年5月19日

| No. | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 别 | 道 横・道 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|-----|-----------|--------|-----|---------|------|-----------|---------|-----|
| 1 | ME16-1229 | | 散布地 | 土器器 | 古代 | 花巻市宮野目字田力 | 新規 | |
| 2 | -1359 | (柏葉城跡) | 城郭路 | | 中・近世 | 花巻市宮野目字田力 | | 丘陵地 |

17、水環境整備事業（乙女川地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第17表 水環境整備事業（乙女川地区）関連遺跡一覧

平成5年4月19日～20日

| No. | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 别 | 道 横・道 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|-----|-----------|-------|-----|---------|-----|--------|---------|-----|
| 1 | NE16-2018 | 石田 | 集落路 | 土器器・酒器 | 古代 | 水沢市西光田 | | |
| 2 | -2111 | 水山 | 散布地 | # · # | 古代 | 水沢市西光田 | | |

18、国道340号道路改良工事（岩泉町横道地内）関連調査

事業者：岩泉土木事務所

第18表 国道340号道路改良工事（岩泉町横道地内）関連遺跡一覧 平成5年7月1日～2日

| No. | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 別 | 道 横・道 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|-----|-----------|-------|-----|---------|-----|---------|---------|-----|
| 1 | KF46-0345 | 横道Ⅱ | 散布地 | 土器器 | 古代 | 岩泉町門字中郷 | | |
| 2 | -0329 | | # | 縄文土器 | 縄文 | # # # | 新規 | |
| 3 | KF47-0032 | 中郷Ⅱ | # | # | # | # # 水上 | | |
| 4 | -0181 | 水上 | # | # | # | # # # | | |

19、県営ほ場整備事業（湯本第四地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第19表 県営ほ場整備事業（湯本第四地区）関連遺跡一覧

平成5年5月19日

| No. | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 別 | 道 横・道 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|-----|-----------|-------|-----|---------|-----|-----------|---------|---------|
| 1 | ME15-0239 | | 散布地 | 土器器 | 古代 | 花巻市湯本字銀沢 | 新規 | |
| 2 | -0294 | 門ノ目 | # | | | 花巻市湯本字門ノ目 | | 養林寺跡を含む |

20、県営畜産經營環境整備事業（軽米・九戸地区道路改良工事）関連調査

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

第20表 県営畜産經營環境整備事業（軽米・九戸地区道路改良工事）関連遺跡一覧

平成5年12月21日～22日

| No | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 別 | 道 構・遺 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|----|------------|-------|-----|----------|-------|-------------|---------|------|
| 1 | J F02-1172 | 江刺家路 | 城郭跡 | 瓦・瓶・土器 | 中世 | 九戸村江刺家第10地割 | | |
| 2 | -1162 | | 散布地 | 土器器 | 古代 | 九戸村江刺家第10地割 | 新規 | |
| 3 | -1059 | 江刺家 I | 集落跡 | 織文土器・土器器 | 織文・古代 | 九戸村江刺家第10地割 | | 範囲拡大 |
| 4 | -1044 | 江刺家IV | # | 土器器 | # | 九戸村江刺家第10地割 | | |

21、県営ふるさと農道緊急整備事業（福伏・牧田地区）関連調査

事業者：大船渡地方振興局農林部

第21表 県営ふるさと農道緊急整備事業（福伏・牧田地区）関連追跡一覧

平成5年8月30日～9月1日

| No | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 別 | 道 構・遺 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|----|------------|-------|------------|-----------|-------|-------------|---------|------|
| 1 | N F76-1315 | 牧田 | 日曜・ 城郭跡 | 瓦・織文土器・石器 | 織文・中世 | 陸前高田市気仙町字牧田 | | 範囲拡大 |

22、黒沢川地方特定河川等環境整備事業関連調査

事業者：水沢土木事務所

第22表 黒沢川地方特定河川等環境整備事業関連遺跡一覧

平成5年9月21日～22日

| No | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 別 | 道 構・遺 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|----|------------|-------|-----|---------|-----|---------|---------|-----|
| 1 | N E05-0378 | 五葉館 | 城郭跡 | | 中世 | 金崎町西側横道 | | |

23、主要地方道水沢人首線（桜沢地区）道路改良事業関連調査

事業者：水沢土木事務所

第23表 主要地方道水沢人首線（桜沢地区）道路改良事業関連遺跡一覧

平成5年9月21日～22日

| No | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 別 | 道 構・遺 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|----|------------|-------|-----|------------|-------|------------|---------|-----|
| 1 | N E16-0381 | 下河原釜石 | 散布地 | 土器器 | 平安 | 水沢市佐倉河岸字釜石 | | |
| 2 | -0365 | 佐野原 | 集落跡 | 土器器・須恵器・石器 | 織文・平安 | # # 字佐野原 | | |

24、かんがい水路建設事業（一方井地区）関連調査

事業者：岩手北部土地改良事業所

第24表 かんがい水路建設事業（一方井地区）関連遺跡一覧

平成5年9月24日

| No | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|----|-------------|-------|-----|-------|----|-----------|--------|--------|
| 1 | J E 96-2138 | 信田 | 散布地 | 土器・石器 | 縄文 | 岩手町一方井字黒内 | | |
| 2 | K E 06-0245 | 黒内IX | 集落跡 | 土器 | ? | ? | ? | |
| 3 | -0214 | 黒内III | ? | 土器・石器 | ? | ? | ? | 事業地に隣接 |

25、国道45号普代バイパス建設事業関連調査

事業者：建設省三陸国道工事事務所

第25表 国道45号普代バイパス建設事業関連遺跡一覧

平成5年6月7日～8日

| No | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|----|-------------|-----|-----|-------|----|------------|----------|-----------|
| 1 | K G 02-0109 | | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | 普代村12地前字中村 | | |
| 2 | J G 92-2272 | 普代 | 集落跡 | ? | ? | ? | 10地前字羅賀 | 範囲拡大 |
| 3 | -2211 | | | | | ? | 8地前字太田名原 | 可能性あり |
| 4 | -1232 | | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | ? | 14地前字宇留部 | 新規 |
| 5 | -1119 | | ? | ? | ? | ? | ? | ? |
| 6 | -0137 | 力持 | 集落跡 | ? | ? | ? | 16地前字天坪坂 | 範囲拡大・遺物密集 |
| 7 | -0117 | | 散布地 | ? | ? | ? | 17地前字野胡桃 | 新規 |

26、農免農道整備事業（松石地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第26表 農免農道整備事業（松石地区）関連遺跡一覧

平成5年5月27日～28日

| No | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|----|-------------|-------|-----|---------|-------|----------|--------|-----|
| 1 | K F 58-1373 | 馬立I | 散布地 | 土器・須恵器 | 古代 | 岩泉町蘇崎畠石神 | | |
| 2 | -1371 | 馬立II | ? | ? | ? | ? | ? | |
| 3 | -1289 | 馬立III | ? | 縄文土器・土器 | 縄文・古代 | ? | ? | 馬立 |
| 4 | -1149 | 奥綿御所 | 城跡跡 | | | ? | ? | 伝承地 |

27、一般農道整備事業（滝地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第27表 一般農道整備事業（滝地区）関連追跡一覧

平成5年5月27日～28日

| No | 道路コード番号 | 道路名 | 種別 | 道構・遺物 | 時代 | 所在地 | 新発見の有無 | 備考 |
|----|-------------|-----|-----|-------|----|---------|--------|----|
| 1 | J F 48-2244 | | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | 久慈市大川町滝 | 新規 | |

28、農免農道整備事業（五日市湯沢地区）関連調査

事業者：岩手県農政部

第28表 農免農道整備事業（五日市湯沢地区）関連遺跡一覧

平成5年7月19日～20日

| No | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 別 | 道 橋・道 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|----|-------------|-------|-----|---------|-----|-------------|---------|-------|
| 1 | J E 44-2045 | | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | 安代町瀬ノ又 | 新規 | |
| 2 | -2037 | | リ | リ | リ | リ リ | リ | |
| 3 | -2086 | | リ | | リ | リ リ | | 可能性あり |
| 4 | -1377 | 山内蔵鉄場 | 蔵鉄場 | | 近世 | 淨法寺町大字大清水湯沢 | 埋滅？ | |
| 5 | J E 45-1082 | 湯沢I | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | リ リ リ | | |
| 6 | -2912 | 湯沢II | 集落跡 | リ | リ | リ リ リ | | 事業地外 |
| 7 | -2925 | 湯沢III | リ | リ | リ | リ リ リ | | |
| 8 | -2027 | 湯沢IV | リ | リ | リ | リ リ リ | | |
| 9 | -2028 | 湯沢V | 散布地 | リ | リ | リ リ リ | | |
| 10 | -2929 | 湯沢VI | リ | リ | リ | リ リ リ | | |
| 11 | -2926 | 湯沢VII | リ | リ | リ | リ リ リ | | |

29、ふるさと農道緊急整備事業（目名市地区）関連調査

事業者：岩手北部土地改良事務所

第29表 ふるさと農道緊急整備事業（目名市地区）関連遺跡一覧

平成5年8月27日

| No | 道路コード番号 | 道 路 名 | 種 別 | 道 橋・道 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|----|-------------|--------|-----|---------|-------|--------|---------|------|
| 1 | J E 54-1137 | | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | 安代町目名市 | 新規 | |
| 2 | -1156 | | リ | リ | リ | リ リ | リ | |
| 3 | -2105 | 上の山I | リ | リ | リ | リ 上の山 | | |
| 4 | -2123 | 上の山II | リ | リ | リ | リ リ | | |
| 5 | -2124 | 上の山III | リ | リ | リ | リ リ | | |
| 6 | -2154 | 上の山IV | リ | リ + 土師器 | 縄文・古代 | リ リ | | 範囲拡大 |

30、ふるさと農道緊急整備事業（紫波中央地区）関連調査

事業者：盛岡南部土地改良事業所

第30表 ふるさと農道緊急整備事業（紫波中央地区）関連遺跡一覧

平成5年9月9日～10日

| No | 遺跡コード番号 | 道 路 名 | 種 別 | 道 橋・道 物 | 時 代 | 所 在 地 | 新発見 の有無 | 備 考 |
|----|-------------|-------|-----|--------------|-------|----------|---------|-----|
| 1 | L E 66-0393 | 日詰七久保 | 散布地 | 須恵器 | 平安 | 紫波町日詰七久保 | | |
| 2 | -0312 | 平坊田 | 集落跡 | 土師器 | リ | リ 陣ヶ岡字平坊 | | |
| 3 | -1370 | 板町上野沢 | 散布地 | 縄文土器+土師器+須恵器 | 縄文・古代 | リ 板町上野沢 | | |

IV 写 真 図 版



前沢町大桜遺跡 1号住居跡



前沢町大桜遺跡 2号住居跡



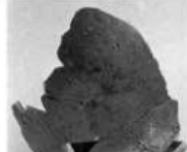
前沢町大桜遺跡 3号住居跡



前沢町大桜遺跡 垂穴状造構



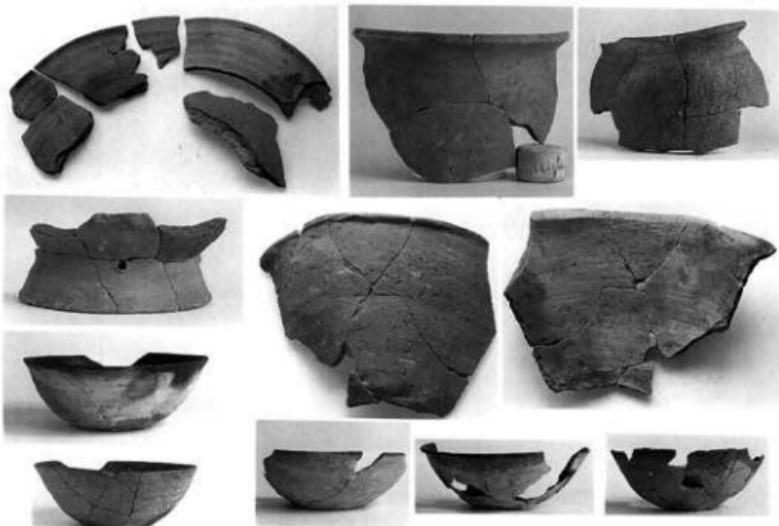
大桜遺跡 1号住居跡出土遺物



△大桜遺跡



大桜遺跡ビット出土かわらけ



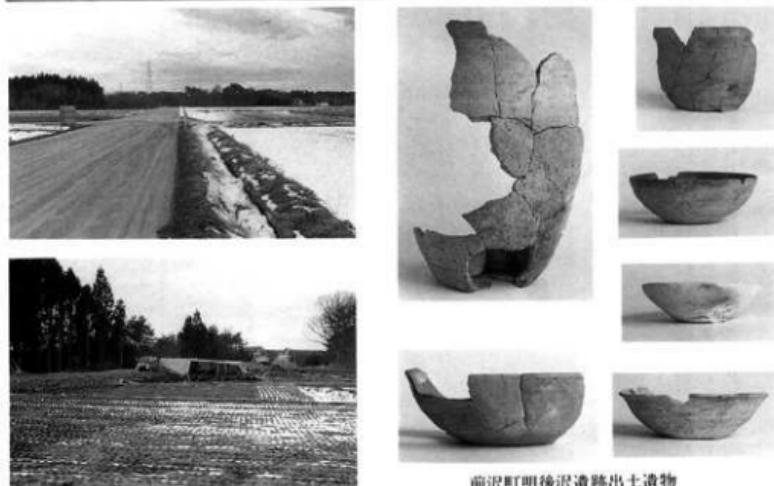
前沢町呂木本杉遺跡出土遺物



江刺市觀音堂沖遺跡出土遺物

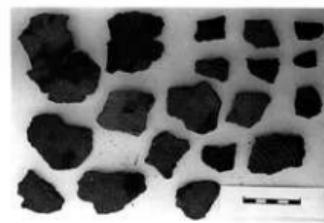
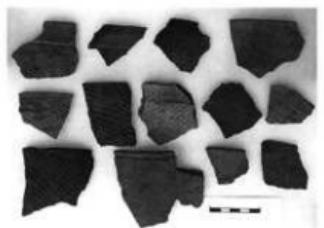
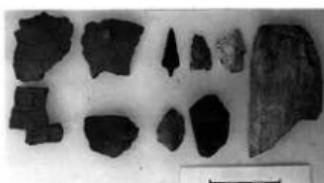


江刺市觀音堂沖遺跡出土遺物

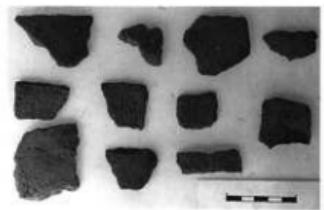


前沢町明後沢遺跡調査風景

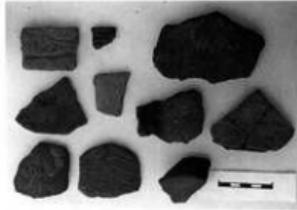
前沢町明後沢遺跡出土遺物



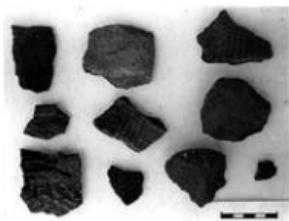
一戸町北館G道路出土遺物



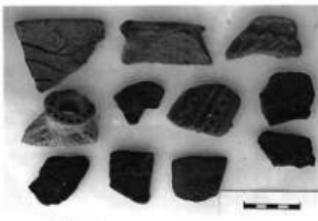
大迫町人中道路出土遺物



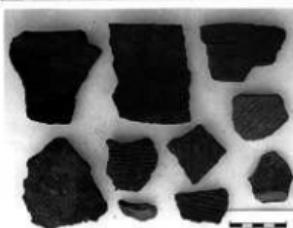
湯田町本内日道路出土遺物



陸前高田市牧田貝塚出土遺物



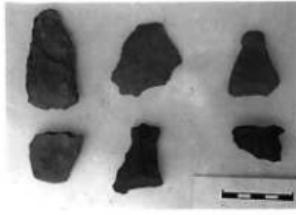
種市町ゴッソー遺跡出土遺物



田野畠村浜岩泉遺跡出土遺物



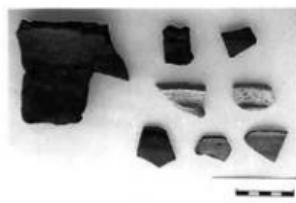
北上市本内遺跡出土遺物(1)



北上市本内遺跡出土遺物(2)



大船渡市上甲子遺跡出土遺物



水沢市龍ヶ馬場遺跡出土遺物



岩手県文化財調査報告書第95集
岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成5年度)

発行日 平成6年3月

発行 岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10-1

編集 岩手県教育委員会事務局文化課
印刷 横杜陵印刷
盛岡市みたけ二丁目22番50号

